

## 学校法人福岡学園 平成26年度事業報告の概要

### 1. 「口腔医学の学問体系の確立・育成」について

口腔医学教育・口腔医療の確立育成のフロントランナーとして、10年余その実践に努めてきました。健康長寿社会を支えるため大学改革に取り組む本学の意図を社会に広めるため、理事長、常務理事、学長等が文部科学省等の関係者に理解と協力を得るよう要請を行いました。

また、文部科学省選定の戦略的大学連携事業「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」（助成期間は平成20年～22年度）については、助成期間を含めた10年間の事業として、今年度は関東地区の神奈川歯科大学が担当校となり実施した口腔医学シンポジウム「歯周医学～歯周病と全身疾患（病診連携による生活習慣病対策）～」において一般の方も多数参加していただきました。

### 2. 教育の改善・充実等について

- (1) 教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学への支援として今年度より新たに開始された「大学教育再生加速プログラム（AP）」（文部科学省実施）に、福岡歯科大学はテーマⅡ「学修成果の可視化」に採択され、教育支援・教学IR室を新設し、学士力として修得すべき能力の適合性を分析・可視化し、学生の修学支援に活かすための支援を受けました。福岡医療短期大学はテーマⅠ・Ⅱ複合型「アクティブ・ラーニングと学修成果の可視化」に採択され、医療・福祉系実践教育におけるアクティブ・ラーニング教育改善モデルの提唱を達成目標として、人材養成機能の抜本的強化のための支援を受けました。
- (2) 昨年度からの継続事業である「私立大学等改革総合支援事業」（文部科学省および日本私立学校振興・共済事業団が共同実施）において、今年度は、福岡歯科大学および福岡医療短期大学ともに、タイプ1「大学教育の質転換」に採択され、「大学力」の向上のため組織的・体系的に大学改革に取り組む大学として、大学は、少人数教育による臨床実習、手術手技等に関するアクティブラーニング、教員と学生とのインタラクティブな教育、グループ教育等の実践のため、短大は、両学科のアクティブラーニングおよび各授業計画を見直し次年度のシラバスに反映する等の実践のため引き続き支援を受けました。
- (3) 大学においては、臨床実習充実のため、医科歯科総合病院に「教育用医療デジタル画像作成及び配信システム」を整備したほか、病院3階の学生技工室を「第2総合診療室」に改修し、教育実習用チェアユニット12台、各ユニットを監視する装置を整備しました。併せて、チーム学習を行うラーニングコモンズを設置しました。
- (4) 短大においては、本学園の医科歯科総合病院、口腔医療センター、介護施設サンシャインシティ、サンシャインプラザ（社会福祉法学会）との協力により、より実践的な臨床臨床地実習の充実に努めたほか、保健福祉学科では、介護福祉士養成校の中で福岡県初の「医療的ケア実地研修機関」の認定に向けて準備をしました。
- (5) 教員の教育能力および教育の質等の向上について、大学では1)学生支援の充実、2)教員の資質向上、3)大学院および研究の活性化に関するFDおよび大学改革推進事業の取組としてFD・SDワークショップを実施、短大では毎月1回のFD講演会、産業界GPおよびAPの取組として2つの特別FD講演会を実施しました。
- (6) 「第108回歯科医師国家試験」は既卒者を含めた総合合格率が57.0%（全国平均59.9%）でした。今後は教育支援・教学IR室等における分析・検討に基づき、国試対策の一層の向上に努めます。また、短大の「第24回歯科衛生士国家試験」は合格率96.6%（全国平均95.9%）で受験者89名のうち86名が合格し、3名が不合格でした。

### 3. 研究の活性化について

- (1) 研究業績として、専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は、福岡歯科大学は151編（うち欧文75編）、福岡医療短期大学は13編（うち欧文1編）でした。
- (2) 文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に選定された3つの事業を中心として、先端的研究を推進しました。
  - ①先端科学研究センターでは、5年計画の研究「疾患の発症と進展を抑制する分子基盤」が新たに文部科学省から採択され、これまでの研究をさらに発展させて、疾患の発症と進行をより適確に制御する方策の確立に向けて研究を開始しました。
  - ②再生医学研究センターでの研究「生体内環境を調和する硬組織再建システム」は、5年計画の最終年度に当たり、研究経費を重点配分し研究推進に努めました。なお、これまでの研究

成果を報告書として取り纏めて文部科学省に提出、2名の専門査定委員による最終評価結果として、A-Cの三段階評価でAおよびBの評価を受けました。

- ③老化制御研究センターの研究「老化の抑制と疾患の制御における環境ストレスとゲノムの応答」は、3年目の評価において、これまでの研究成果を取り纏めて文部科学省へ提出、2名の専門査定委員によるA-Cの三段階評価でAおよびBの評価を受けました。
- (3) 科学研究費助成事業において、大学は、新規採択件数 20 件（前年比 4 件減）、短大は 3 件（前年同値）となり、約 1 億円を獲得しました。

#### 4. 学生の支援等について

- (1) 大学では、講義録画システムを主要な教室に増設したほか、学内どこからでも蔵書図書情報が検索できる「図書館閲覧システム」および「セキュリティシステム」を整備し、学生の自己学習体制を充実させました。
- (2) 短大では、福岡県歯科医療関係職員配置促進事業の助成を受け、実習用ユニット 9 台をリニューアルし、専門教育におけるアクティブ・ラーニング型教育の推進に努めました。
- (3) 学生募集について、平成 27 年度入学者数は、口腔歯学部募集人員 96 名に対し 96 名、短大歯科衛生学科募集人員 80 名に対し 84 名、保健福祉学科 40 名に対し 27 名となりました。

#### 5. 社会との連携・貢献について

- (1) 新設した地域連携センターでは、公開講座、出前講座、生涯研修、セミナー等を開催し、地域社会の健康維持増進、人材の育成、最新医療情報の発信等に努めました。また、歯科医師会と連携して無医地区での歯科検診実施を検討、超高齢地区で健康教室等の実施、総合病院と連携して入院患者への口腔ケアの実施など、健康長寿社会の構築および地域社会の活性化に努めました。
- (2) 医科歯科総合病院では、医科と歯科からそれぞれ副院長を配置し管理体制の充実を図りました。また、サービス向上の対策として「新病院情報システム」の円滑な運用を図るため、「医療情報室」を設置し、自動精算機、POS レジシステムを導入したほか、労災保険指定医療機関の指定を受けました。なお、1 日平均の外来患者数は 636.3 人で前年度比 2.8% 増、入院患者数は 29.9 人で 21.6% 増となりました。病院改築計画については、新医科歯科総合病院改築委員会において引き続き検討を重ねています。
- (3) 口腔医療センターは、地域医療への貢献のため歯科医師、歯科衛生士の充実を図り、年間患者総数は 28,852 人（前年比 16.2% 増）、1 日平均患者数は 107.5 人となりました。
- (4) 介護老人保健施設は、地域病院、地域公民館、包括支援センター等と連携して利用者拡大に努め、入所者は 1 日平均 77.0 人（前年 81.2 人）となりましたが、通所者は 1 日平均 22.1 人（前年 15.4 人）となりました。
- (5) 国際交流では、大学はブリティッシュコロロンビア大学歯学部、上海交通大学口腔医学院、慶熙大歯科大学、ヤンゴン歯科大学、中国医科大学口腔医学院と学生交流・学术交流を実施しました。また、ランシット大学（タイ）の学長、歯学部長等が本学実習室等を視察されました。短大は、姉妹校である東釜山大学から来学した学生が、歯科衛生学科 3 年次生と交流を深めました。

#### 6. 組織運営について

- (1) 学校教育法の改正に伴って、「福岡歯科大学学則」等の諸規程・細則の改正等を行い、学長のリーダーシップの下で、戦略的に大学を運営できるガバナンス体制を構築しました。
- (2) 外部資金導入として、文部科学省から私立学校施設整備費補助金、私立大学等研究設備費等補助金、教育研究活性化設備整備費補助金、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に係る研究費補助金および大学改革推進等補助金などで約 2 億 8 千万円を受け入れました。この他、寄附金の受け入れについて、税制上の優遇措置（税額控除対象法人）を周知するとともに、学内にも協力を依頼しました。
- (3) 短大は、短期大学基準協会から高い評価を受け、基準に適合しているとの評価結果を得ました。
- (4) 前理事長の逝去に伴い、本学園理事会において理事長に水田祥代理理事長職務代理を選任し、新体制となりました。

急激に社会情勢が変化する今日、大学には地域社会、国際社会の期待に応えるための改革が求められています。本学では、医療、保健、福祉の総合学園としての特色をさらに充実、発展させ、社会の期待に応えられる人材育成を目指して、引き続き努めてまいります。

## 学校法人福岡学園 平成26年度事業報告書

### I 法人の概要

#### 1. 法人の目的

学校法人福岡学園は、昭和48年に西日本唯一の私立歯科大学として「福岡歯科大学」を開設し、現在、口腔医学の学問体系の確立・育成と全身の疾患が理解できる医療人の育成に向けて、特色ある教育研究を行っている。平成25年4月からは、学部学科の名称を「口腔歯学部・口腔歯学科」に変更するとともに、歯学教育や歯科医療を医学教育と融合させた口腔医学の学問体系の確立・育成の重要性を文部科学省等の関係者に理解と協力を得るよう要請を行っている。また、地域の医療センターとしての「医科歯科総合病院」のほか、サテライト施設として臨床実習及び卒業後研修の拡充、地域歯科医療の向上等を目的とした「口腔医療センター」を博多駅前には有する。この他、全国初の「口腔保健学士」認定専攻科を持つ「福岡医療短期大学(歯科衛生学科・保健福祉学科)」、全国に先駆けて設置した高齢者福祉のための「介護老人保健施設 サンシャインシティ」を併設している。このように、今日まで一貫して教養と良識を備えた有能な歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士の養成及び教育・研究者を育成することを目的とし、医療・保健・福祉の総合学園として、教育・研究の質の向上及び地域医療・福祉への貢献を目指している。

#### 2. 沿革

昭和47年 7月	学校法人福岡歯科学園寄附行為認可、福岡歯科大学設置認可
昭和48年 2月	福岡歯科大学附属病院開設
昭和48年 4月	福岡歯科大学開学
昭和55年11月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校設置認可
昭和56年 4月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校開校
昭和60年 3月	福岡歯科大学大学院設置認可
昭和60年 4月	福岡歯科大学大学院開学
平成 8年10月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校の福岡医療福祉専門学校への校名変更及び同校の社会福祉専門課程設置認可
平成 8年12月	福岡医療短期大学設置認可
平成 9年 3月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程募集停止
平成 9年 4月	福岡医療短期大学開学、福岡医療福祉専門学校開校
平成11年 2月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程廃止認可
平成11年 4月	福岡医療短期大学専攻科歯科衛生学専攻開設
平成11年12月	福岡医療短期大学保健福祉学科設置認可
平成12年 1月	福岡医療福祉専門学校社会福祉専門課程募集停止
平成12年 4月	福岡医療短期大学保健福祉学科開設
平成14年 1月	福岡医療福祉専門学校廃止認可
平成14年 8月	介護老人保健施設（サンシャイン シティ）開設
平成15年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科3年制へ移行
平成16年 7月	人事考課制度導入
平成17年 1月	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院に改称
平成17年 4月	教員の任期制導入
平成20年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科の専攻科が大学評価・学位授与機構の認可を得て、学士（口腔保健学）の専攻科として認定
平成23年 6月	法人名を福岡学園に変更認可
平成23年11月	福岡歯科大学口腔医療センター開設認可
平成23年12月	福岡歯科大学口腔医療センターを開設
平成25年 4月	福岡歯科大学の学部・学科名を口腔歯学部口腔歯学科に変更

### 3. 設置する学校・学部・学科等、その入学定員、学生数等の状況

(表1)

(平成26年5月1日現在)

学校名	学部学科等名	開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	収容定員(人)	在学者数(人)
福岡歯科大学 (学長 北村憲司)	口腔歯学部 口腔歯学科	昭和48年	6	120	720	581
	大学院歯学研究科	昭和60年	4	18	72	50
福岡医療短期大学 (学長 栢 豪洋)	歯科衛生学科	平成9年	3	80	240	287
	保健福祉学科	平成12年	2	40	80	57
	計			120	320	344
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	平成11年	1	20	20	17

施設名	区分	開設年度	定員(人)	1日当り利用 平均(人)	年間利用 延数(人)
介護老人保健施設 サンシャインシティ (施設長 中島興志行)	入所	平成14年	85	77.0	28,106
	通所	平成14年	40	22.1	6,421

### 4. 出願者及び入学者等の状況

(表2)

学校名	学部学科等名	平成26年度入学者				平成27年度入学者			
		出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
福岡歯科大学	口腔歯学部 口腔歯学科	379	356	163	93	306	296	160	96
	大学院歯学研究科	19	19	19	17	7	7	7	7
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	118	114	105	103	92	92	90	84
	保健福祉学科	29	28	26	25	32	30	28	27
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	19	19	19	17	22	22	22	20

### 5. 教職員数

(表3)

教員数

(平成26年5月1日現在)

	教授等	准教授	講師	助教	助手	小計	客員教授	客員准教授	臨床教授	臨床准教授	非常勤講師	合計
大学	41	15	40	50	-	146	12	1	17	7	79	262
短大	8	4	6	2	-	20	-	-	-	-	29	49
老健	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
合計	50	19	46	52	-	167	12	1	17	7	108	312

(表4)

## 職 員 数

(平成26年5月1日現在)

	事務職員	技術職員	技能職員	補助職員等	医療職員	介護職員等	医員	合計
大学	41	7	4	27	-	-	-	79
短大	3	-	-	2	-	-	-	5
病院	8	-	-	5	96	-	56	165
口腔医療センター	1	-	-	2	11	-	7	21
老健	1	-	-	2	16	42	-	61
合計	54	7	4	38	123	42	63	331

※非常勤職員を含む。

## 6. 役員・評議員・役職教職員

(平成26年5月1日現在)

(表5) 理事・監事・顧問 15名

理事長	田中健藏
常務理事	水田祥代
常務理事	本田武司
理事	北村憲司
理事	栢豪洋
理事	荒川規矩男
理事	宮口嚴
理事	厚谷彰雄
理事	小島寛
理事	田代英雄
理事	大石秀雄
理事	長谷宏一
監事	藤野正春
監事	西方和久
顧問	岩崎光太郎

(表6) 評議員 26名

評議員	田中健藏
評議員	北村憲司
評議員	栢豪洋
評議員	小島寛
評議員	厚谷彰雄
評議員	香月俊博
評議員	本山久美子
評議員	石橋慶憲
評議員	水田祥代
評議員	本田武司
評議員	中島與志行
評議員	中山宏明
評議員	池邊哲郎
評議員	荒川規矩男
評議員	田代英雄
評議員	大石秀雄
評議員	長谷宏一
評議員	松田峻一良
評議員	染矢廣美
評議員	熊澤榮三
評議員	朔啓二郎
評議員	前原喜彦
評議員	宮口嚴
評議員	武井俊哉
評議員	高橋裕
評議員	古賀千尋

(表7) 役職教職員

大学長	北村憲司
短大学長	栢豪洋
医科歯科総合病院長	小島寛
事務局長	厚谷彰雄
学生部長	高橋裕
情報図書館長	大関悟
口腔・歯学部門長	佐藤博信
全身管理・歯学部門長	池邊哲郎
社会医歯学部門長	埴岡隆
基礎医歯学部門長	岡部幸司

## II. 事業の概要

### 1. 教育の改善・充実

#### 1) 口腔医学の確立・育成

本学では、“口腔”を身体の一つの臓器と位置づけ、現在の歯学教育の高度専門化とともに一般医学教育を充実させた「口腔医学」を確立・育成することは、超高齢社会を支える歯科医学・歯科医療にとって非常に重要であるとの考えから、「歯学から口腔医学へ」をモットーに、口腔医学教育・口腔医療の確立・育成のフロントランナーとして、その実践に努めてきた。

平成 25 年 4 月から、国民の負託に応える本学の意図を社会に広めるとともに、学生・教職員と歯科医師の意識改革や社会・国民の歯学・歯科に対するイメージの変革を期待して、福岡歯科大学の学部・学科の名称を「口腔歯学部・口腔歯学科」に変更し、今年度は、理事長、常務理事、学長等が文部科学省等の関係者に理解と協力を得るよう要請を行った。また、平成 20 年度文部科学省選定の戦略的・大学連携事業『口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考』（助成期間：平成 20 年 11 月 20 日から 22 年度まで）について、助成期間を含めた 10 年間の事業として継続実施した。本学を代表校とする連携 8 大学（九州歯科大学、北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学、神奈川歯科大学、鶴見大学、福岡大学、福岡歯科大学）で作成したシラバスに基づいた連携大学間での TV 配信授業「医歯学連携演習」の開講、連携大学間で F D 研修会の開催および職員の短期研修派遣等に取り組んだ。この他、1 月には関東地区で「歯周医学～歯周病と全身疾患（病診連携による生活習慣病対策）～」をテーマとして口腔医学シンポジウムを開催し、歯科医師と医師のそれぞれの立場から口腔ケアの重要性や、医科歯科連携の必要性等について広く社会に対しアピールを行い、一般の方の参加も多数あった。また、神奈川歯科大学、鶴見大学、福岡歯科大学の 3 大学で、口腔医学に関する取り組みについて意見交換を行った。

#### 2) 「大学教育再生加速プログラム (AP)」に採択

平成 26 年度より文部科学省が実施する事業で、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学等に支援される。

##### (1) 福岡歯科大学

テーマ II 「学修成果の可視化」の取組（5 年計画）が採択されたことに伴い、平成 26 年 10 月に教育支援・教学 I R 室を新設し、授業科目

の難易度、重要度の平準化によって、学士力として修得すべき能力の適合性を分析・可視化し、学生の修学支援に活かす取組を推進している。

##### (2) 福岡医療短期大学

テーマ I・II 複合型「アクティブ・ラーニングと学修成果の可視化」の取組（5 年計画）が採択されたことに伴い、初年次導入教育・インターンシップ前教育・インターンシップ教育における汎用的能力の育成のための教育改善モデルを実践するほか、卒業後の専門職としての汎用的能力の定着の向上と医療・福祉系実践教育におけるアクティブ・ラーニング教育改善モデルの提唱を達成目標に人材養成機能の抜本的強化を図っている。

##### 3) 「私立大学等改革総合支援事業」に採択

平成 25 年度より文部科学省および日本私立学校振興・共済事業団が共同で実施する継続事業で、「大学力」の向上のため、大学教育の質的転換や、特色を発揮して地域の発展を重層的に支える大学づくりなど、私立大学等が組織的・体系的に取り組む大学改革の基盤充実を図るため、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援される。

##### (1) 福岡歯科大学

タイプ 1 「大学教育の質的転換」に採択

本学の取組みは、①私立大学等教育研究活性化設備整備事業の助成を受け導入した「顕微手術用顕微鏡および動画撮影・記録装置」、②私立学校施設整備費補助金により導入した「無線 IC カードを用いた双方向対話型授業支援システム」等を活用して、口腔医学に基づいた少人数教育による臨床実習、手術手技等に関するアクティブラーニングおよび教員と学生とのインタラクティブな教育、授業評価、グループ教育等を実践した。

##### (2) 福岡医療短期大学

タイプ 1 「大学教育の質的転換」に採択

全学的な体制での建学の精神を生かした教育の質的向上（教育の質的転換）が実践されている大学として、タイプ 1 の「大学教育の質的転換」に採択された。

本学の取組みは、①両学科それぞれの専門教育科目の一部においてアクティブラーニング（学生の主体的な学修）を実施していること、②シラバスのチェック体制により各授業計画を見直し次年度のシラバスに改善点を反映させていること、③履修系統図・ナンバリング・CAP 制を導入していることなどで、全学的な体

制で教育の質的転換を図っている。なお、平成26年7月2日の文部科学省の視察における両学科のアクティブラーニングによる学習成果発表会参観では好評を得た。

#### 4) 口腔歯学部教育

##### (1) 口腔医学教育の実践

###### ① 口腔医学カリキュラム確立の推進

一般医学科目の充実(授業時間増・新科目設置)した口腔医学教育カリキュラムを実施しており、連携8大学共有科目である「医歯学連携演習」については、歯周医学のモデルカリキュラム作成へ向けて、アンケートにて他の連携大学の現状を調査し、取り纏めを行った。また、災害口腔医学モデルシラバスを、神奈川歯科大学の導入事例を参考に作成中である。

###### ② 診療参加型臨床実習の質の確保等

共通評価シートを用いた客観的評価及び医療面接系、技能系評価用シートに基づいた総括的評価を行い、診療参加型実習の質の確保に取り組んだ。

この他、私立学校施設整備費補助金等の助成を受け、次のとおり診療参加型臨床実習の充実を図った。

ア) 医科歯科総合病院にフラットパネル撮影システム、医療画像管理システム等の「教育用医療デジタル画像作成及び配信システム」を整備し、最新のICTテクノロジーを有したシステムへの転換を行った。

イ) 歯科診療における炎症性疾患の評価に使用するため、口腔医療センターに「血液炎症反応迅速測定装置」を導入した。

ウ) 病院3階の学生技工室を「第2総合診療室」に改修し、教育実習用チェアユニット12台、各ユニットを監視する装置のほか、チーム学習を行うラーニングコモンズを整備した。

###### ③ 患者型ロボットを用いた臨床実習

「患者型ロボットを用いた救急時対応口腔医学実技教育システム」の取り組みとして、患者型ロボットを本館4階シミュレーションロボット実習室に24年度1体に続き、25年度末にも1体を設置した。平成26年度はこの2体のロボットを用いて第5学年の臨床実習の中で、救急時対応医科歯科統合シミュレーション実習を後期から実施した。患者を想定した実習を可能とすることにより臨床実習内容の充実を図り、新たな口腔医学臨床実習の構築を目指すものである。

###### ④ 学外研修の充実

第6学年前期の臨床実習中に海外(ブリティッシュコロンビア大学、上海交通大学等)や他大学(広島大学、久留米大学)、学外施設(主に本学臨床教授・臨床准教授の診療施設)での

研修を行うなどの取り組みを実施した。

##### (2) 創造力を持った人材の育成

###### ① 本学独自の学年制の実践

学生全体の勉学意識を高め、教育のレベルアップに繋げるため、昨年度より学年制に移行し、全学年にきめ細かい教育を行い全学生の学力向上を図った。

###### ② 自学自習システムの充実

一部の講義室に口腔医学教育の推進事業として設置されたマルチメディア装置を主要な全教室へ増設した。

###### ③ リメディアル教育の充実

AO入試I期および推薦・指定校推薦入試合格者に対する入学前教育については、教育の充実・強化を図るため、平成27年度入学予定者から、これまでの補強学習を廃止し、新たな取組として、12月に大学入試センター試験レベルの学力テストを実施し、基準点に満たない者には3月までに3回の再テストを実施した。

###### ④ 介護実習の実施

第1学年後期の介護施設実習、第3学年後期の介護宿泊実習、第5学年前期の介護施設での臨床実習を実施した。

###### ⑤ 低学年の態度教育の見直し

欠席過多者を早期に発見し、助言教員等を通じて積極的な学習参加を促した。また、病院見学の注意内容を厳格化し、態度改善を図った。

##### (3) CAP制の運用を開始

単位取得に必要な学習時間の確保のため、学生が1年間に履修を登録できる総単位数に上限を設定するCAP制の運用を開始した。

#### 5) 大学院の教育

##### (1) 教育の可視化・実質化等

大学院教育の質保証の前提として、教育の可視化、実質化を目的に教育の方法・方略を定め、コースワーク及びリサーチワークを区分し、大学院コースを整備した。コースワークでは、授業科目毎に評価を行い、単位取得基準を明確にした。また、リサーチワークでは、年度初めに研究指導計画書の提出を求めるとともに、大学院活動ポートフォリオとして、大学院研究活動報告書及び大学院研究実績報告書による活動実績・成果の提出を求め、指導教授の評価を受けることとした。これにより、学位指導のPDCAサイクルの強化に取り組んだ。

##### (2) 高度な研究能力と豊かな国際感覚の涵養

平成26年度は第4学年13名が学位を取得した。論文博士は1名を認定した。

また、今年度も学部第3学年後期「基礎研究演習」で基礎講座での研究活動を体験させ、将来の大学院生確保に向けての研究者マインドの醸成に努めるとともに、国内外への研修派遣

制度の活用を推進し、アメリカに2名、フランスに1名、国内大学に1名の研修派遣を実施した。

### (3) 充実した経済的支援

奨学生制度においては、一般奨学生10名、特別奨学生10名、リサーチアシスタント18名、ティーチングアシスタント10名を選考した。また、学生共済会大学院一般奨学金を1名に貸与した。

### (4) 口腔医学を基盤とした知的人材養成

口腔医学に沿って総合医学基本テーマを充実させるため、引き続き医科科目の講義・実習を必修科目として開講し、医科疾患の診断・治療の臨床演習を実施した。

## 6) 医療短大の教育

### (1) 高度かつ実践的教育

臨床・臨地実習教育の充実を図るため附属病院の他に、口腔医療センターにおいても実習を実施しており、歯科衛生学科3年次は、昨年度に引き続き8月26日から11月13日までの期間で各班3日間、また、専攻科生は、5月13日から7月31日までの各班12日間、臨床・臨地実習を実施した。

### (2) 専門分野のエキスパート養成

歯科衛生学科においては、口腔介護（要介護者への口腔ケア）教育を充実させるため、2年次後期授業で高齢者の口腔機能向上に向けた講義・実習を行ったほか、介護職員初任者研修の資格取得のための講義、実習を行った。

保健福祉学科においては、2年次生を対象とした「医療的ケア基本研修」（喀痰の吸引技術や胃瘻等の栄養管理）を、実習の場であるサンシャインシティ、サンシャインプラザ〔（福）学会 介護老人福祉施設〕において、同施設職員2名の非常勤講師と連携して実施することで、医療的ケア教育を実践した。さらに、福岡県への「医療的ケア実地研修機関」としての登録申請手続きを進めており、介護福祉士養成校の中で福岡県初の実地研修機関の認定を受けることで、来年度の医療的ケア教育の充実を図る予定である。

### (3) 科目ナンバリング・履修系統図の活用

平成25年度に導入した科目ナンバリング（各授業科目に学科、学年水準、履修区分、通し番号で構成する8桁の科目番号を付す）に基づき、学則別表（カリキュラム表）の科目表記に反映させた。さらに、学生の教育課程の目的や授業科目の学修段階での位置づけ等の理解を助ける目的で、授業要綱（シラバス）内に履修系統図（授業科目を科目群ごとに各年次別、前後期別に配置し、科目間のつながりを線で結んだ図）を掲載した。

### (4) CAP制の運用を開始

単位取得に必要な学習時間の確保のため、履修科目の数・種類が過多とならないよう学生の1年間の登録科目の登録単位数の上限を設定するCAP制の運用を開始した。

### (5) 将来像の検討

歯科衛生学科では、教員の質の向上を図るため、グループによる研究を進めた。保健福祉学科では、特に社会人学生からの要望が強い医療的ケア教育等の充実を志願者増につなげるため、月1回定期的に開催している運営会議の中で幅広く教育の充実と周知の方策を検討するとともに、今後の志願者動向を分析し、その在り方を検討中である。

## 7) 教員の教育能力および教育の質等の向上

### (1) 福岡歯科大学

FD委員会において、毎年、組織的なFDの実施に取り組んでいる。今年度も効果的なFDを事業別に3つに大別し、1)学生支援の充実、2)教員の資質向上、3)大学院および研究の活性化、について実施した。また、文部科学省大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）の大学教育再生加速プログラム（「学修成果の可視化」）に採択された取組として、FD・SDワークショップを10月～2月に8回開催した。その他、FD関連事業として、セクハラ防止委員会との共催でハラスメント講演会を5月に、助言教員制度を充実させるためのワークショップを6月と3月に開催する等、教員の教育力向上に努めた。

### (2) 福岡医療短期大学

教育力の向上を目的として、全教員が講師を担当するFD講演会（教育方法の工夫、口腔介護教育、研究に関する報告等）を継続して開催したことで、平成26年度は科研費補助金の採択件数・補助金総額ともに前年度に比べて増加した。また、平成26年度『産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業』と『大学教育再生加速プログラム』の取組として、学生対象のキャリア教育セミナー・ガイダンスの実施（計10回）や学外有識者による教職員対象の特別FD講演会（計2回）、外部評価委員会の開催（計4回）等を実施し、短大全体の教育支援体制を強化することができた。

### (3) 最優秀教育改善賞

福岡歯科大学および福岡医療短期大学では、教員の意欲向上並びに教育の質向上および改善を図るため、「最優秀教育改善賞要項」を制定し、平成26年度から教育活動において顕著な成果を挙げ、他の教員の模範となる教員を表彰した。



## 8) 国家試験

### (1) 福岡歯科大学

歯科医師国家試験合格に向けて、激励会の開催、予備校模擬試験・予備校講義の実施および卒業試験・再試験問題のブラッシュアップ等種々の対策を講じた。今年度は82名の卒業生が第108回国家試験を受験し、53名が合格した。合格率は64.6%であり、前回の56.5%から8.1ポイント増となった。既卒者を含めた総合の合格率は57.0%で17私立歯科大学中第11位であった(私立歯科大学全国平均合格率59.9%)。

共用試験は、全員に用語集を配付するなど早期対応を図ったが、第4学年85名が受験しCBT

で41名が再試を受験した結果17名が不合格となり留級した。

### (2) 福岡医療短期大学

歯科衛生学科は、過年度に引き続き歯科衛生士国家試験の100%合格を目指して、国家試験演習を15回実施するとともに、各回の成績不振者に対しては、水曜日、土曜日に国家試験問題集を使用する補習を実施した。また、第21回国家試験より問題数が20問増加、新たに高齢者歯科学および障害者歯科学等の追加に対応した口腔保健テーマ別講義を実施した。その結果、第24回歯科衛生士国家試験では受験者89名(既卒者2名を含む)のうち86名が合格した。(本学合格率96.6%、全国平均合格率95.9%)

## 2. 研究の活性化

### 1) 研究の質の向上

#### (1) 研究マネジメント体制の整備等

福岡歯科大学・福岡医療短期大学における研究活性化の一環として、専任教員および医員等を対象に、研究(研修)テーマの取組み進捗状況をまとめ所属長を経て理事長に提出させ、理事長はこの報告書をもとに学長とともに各所属長と面談を行い、若手教員の育成、計画的な研究の実施に向けての指導を行った。

また、教育研究経費等として、福岡歯科大学には学長重点配分経費50,000千円、病院長重点配分経費5,000千円、学術振興基金事業経費25,300千円を、福岡医療短期大学には1,000千円を共同研究費として重点配分した。

平成26年度の研究業績は、福岡歯科大学専任教員の総論文数(著書、総説、原著論文、症例報告等)は151編、うち欧文は75編であった。福岡医療短期大学専任教員の総論文数(著書、原著論文等)は13編、うち欧文は1編であった。(別表1)

#### 2) 先端科学研究センター

##### (1) 平成26年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択

これまで当センターは、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の支援をうけて、平成20年より5年間にわたって「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレスの制御」の研究を実施してきた。そこでは関口睦夫センター長が中心となり学内の12名の教授が計画研究を実施し、その他に公募によって選んだ11名の准教授、講師、助教による研究を行った。これらの研究の成果を研究成果報告書として取り纏め、平成25年5月に文部科学省へ提出した。

また、これまでの研究成果をふまえて新たに

研究計画を策定し、平成26年2月に文部科学省へ提出したところ、6月26日付で採択の通知があった。今回採択された「疾患の発症と進展を抑制する分子基盤」の研究の意義と目的は次の通りである。

① 多くの疾患の背景には、遺伝子の発現異常や突然変異などの遺伝的要因があり、それに生活習慣を含む環境的要因が作用して疾患が発症し進展する。疾患の発症および進展を抑制するには、ゲノムを安定に保ち、その発現を適切に制御することが重要である。本研究は、そのような認識に基づいて、我が国における三大死因である悪性新生物、心臓血管病、感染症に対する生体防御機構および環境因子の影響について研究し、口腔疾患を含む多くの疾患を制御する基盤を確立しようとするものである。研究は分子レベルを中心に行うが、それを基に細胞および個体レベルの現象について明らかにしたい。ここで得られる成果は、疾患の予防や治療を行う上で重要なばかりではなく、様々な環境の変化に対して生物がどのようにして恒常性を維持するかという、生命科学の基本的な問題の解明にも役立つと考えられる。

② この研究を遂行するには基礎生命科学から医学・歯学にまたがる研究者の共同作業が必要であり、そのため福岡歯科大学に所属する分子生物学、免疫学や細胞生物学、さらに口腔医学や臨床医学を専攻する研究者がチームを組んで研究を進める体制をとっている。その中心になるのは教授層の研究者であるが、それに若手の研究者が参加し協力して研究を進める。この分野の研究は世界的にも日進月歩の勢いで進んでおり、国際的な連携が不可欠であり、外国の研究者と積極的に交流し、最新の情報を共有しつつ弾力的に研究を進めたい。このような先

進的な研究教育体制に大学院生を含む若手の研究者を組みこみ、将来の研究と教育を担う人材を育てたい。

③ 上に述べた目的を達成するため、細胞のゲノム安定化システムおよび形質転換を中心に研究を進める。本研究事業は5年間にわたって実施するが、3年目までに鍵となる基本的な反応系を明らかにし、それに関わる酵素や調節タンパク質、シグナル伝達分子を同定する。それらのタンパク質のcDNAや遺伝子をクローニングし、さらに遺伝子系の発現制御を解明する。4年目以降には遺伝子改変マウスや遺伝子欠損細胞株を作出して解析を進め、細胞内の反応と個体レベルの生物現象を関連づけて理解できるようにする。このような体系的な研究に加えて、若手の研究者の独自の発想に基づく研究活動も本研究費で支援したい。

本プロジェクトでは福岡歯科大学に所属する14名の研究者(教授6名、准教授5名、助教3名)が主体となって研究にとり組み、それに2名の外国の研究者が参加して弾力的に研究を進める。平成26年7月には、今後の研究の担当研究者全員が集まって具体的な研究計画を決めた。それに従って準備を進め、平成26年10月より本格的な研究を開始した。今後は上記の研究をさらに発展させて、疾患の発症と進行をよりの確に制御する方策を確立したいと考えている。

### 3) 再生医学研究センター

文部科学省の平成22年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された研究プロジェクト「生体内環境を調和する硬組織再建システム」に関する研究の最終年度に当たり、9月に研究成果報告書概要の作成を行い文科省に提出した。本年度も研究費として約29,000千円の予算を組み、計画研究を行う11名の研究者と、学内公募により採択された11名の若手研究者に配分し、研究を実施した。研究進捗状況を研究分担者全員で把握するために月1回の報告会を継続して行うとともに、分担研究者および公募研究者による25年度の研究成果報告会を6月6日に実施した。プログラムを別表2に示す。平成26年10月には日本大学医学部の松本太郎教授を招き「脱分化脂肪細胞の特性と細胞治療への応用」と題した講演を再生医学研究センターシンポジウムとして開催した。本研究プロジェクトでは1)欠損部を補填する骨補填材、2)再建部位への細菌や軟組織の侵入を防ぐ遮断膜および3)上皮を保護して温熱刺激を付加する保護膜を統合した構造とし、再生場をバイオリアクターとして機能させることにより、生体内環境と調和しつつ硬組織を再生するシステムの構築を目的とした。研究成果

は関連するものを含めて約170編の原著論文、約270件の学会発表として集約され、最終報告書を冊子体として作成した。9月に提出した研究成果報告書概要に対する2名の専門査定委員による最終評価結果としてはA-Cの三段階評価でAおよびBの評価を得たことから、プロジェクトの成果としては良好であったと考えている。

現プロジェクトの終了に当たり、これまでの研究成果をもとに次期申請を視野に将来計画について運営委員会で検討した。その結果、「組織模倣性ニッチ環境を利用した生体調和性組織再建システムの確立」というタイトルで平成27年度戦略的研究基盤形成支援事業の新規申請を2月に行った。

### 4) 老化制御研究センター

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の支援を受けて、「老化の抑制と疾患の制御における環境ストレスとゲノムの応答」の研究を平成24年度より5年間にわたって実施予定である。26年度は、研究経費40,000千円のうち17,500千円を中央管理費として、人件費、シンポジウム開催費、センター運営費等に使用した他、残り22,500千円を計画研究者14名に配分して事業を進めた。主要なセンター機器として、生体成分の検出・定量にルミノ・イメージアナライザー、生体成分の分離測定にACQUITY UPLC UVシステム、組織細胞の観察にHSオールインワン蛍光顕微鏡などが整備され、多くの研究者に高頻度で利用されている。

本研究では、福岡歯科大学に所属する分子生物学や細胞生物学、さらに口腔医学や臨床医学分野の15名の研究者を核として研究を進め、さらに国際的な連携として、アメリカ、フランス、中国の研究者にも参加を求めた。その成果として、26年度には本プロジェクト研究により得られた原著論文および総説69報、図書1冊、学会発表126報を中間報告の形で公開することができた。

(<http://www.fdcnet.ac.jp/col/facilities/ca/index.html>)

(<http://www.fdcnet.ac.jp/col/facilities/ca/pdf/interim%20report.pdf>)

また3年目にあたる今年度秋には、これらの成果を「研究進捗状況報告書」として文部科学省に提出し、2名の専門査定委員よりA-Cの三段階評価でAおよびBの評価を得た。

### 5) アニマルセンター

使用者講習会は、更新者(4年毎)25名、新規登録者24名が受講した。実験申請件数は22件であった。動物種の導入はマウス(SPF含む)が566匹増、またウサギ、モルモットなど導入

動物種が増え、研究活動の活性化も見られた。また、飼育室の温度管理を行う「中央監視装置」の更新を行い、飼育環境の向上を図った。

### 6) 科学研究費助成事業の獲得

科学研究費助成事業の獲得状況は、別表3(大学)、別表4(短大)のとおり。大学では前年度に比し、新規採択件数が4件減(24件から20件)、新規採択内定額が39,910千円(15,080千円減)となった。この結果を踏ま

え、次年度科研費獲得に向け、申請予定者を対象に、申請のポイント等に関する説明会を実施したほか、科研費獲得PT等のメンバーによるブラッシュアップを行うなど、申請内容の充実に努めた。短大では、新規採択件数は前年同値(3件)、新規採択内定額が、3,770千円(130千円増)となった。

## 3. 学生の支援等

### 1) 修学等の支援

#### (1) 修学支援システムおよび主体的学習支援体制の整備・充実

##### ① 学生ポートフォリオの作成

助言教員FDを開催し、助言教員と学生とのコミュニケーションの取り方及び学修指導方法等について協議した。また、班別懇談会を複数回開催して学生の状況把握に努め、特に指導が必要な学生に対しては個別面談を適宜実施のうえ、指導状況を学生ポートフォリオ(学生指導記録)として作成した。このポートフォリオは、助言教員が学生を指導の際の資料や引継ぎ資料として利用する等、学生に対する適切な指導を行った。

##### ② スチューデント・アシスタント(SA)制度の活用

学生および大学院生等が、学生に対する学習支援や学生生活支援業務に従事することにより、学生相互の成長を図ることを目的に、4月にSAを募集、学部学生24名、大学院生13名を採用し、5月より学習支援(補習)を実施した。SA自身の成長とともに、留級生を含む学生の学習意欲が高まった。

##### ③ 多様な学生に対応した将来の進路を含めた指導の実施

福岡歯科大学では、助言教員が日々学生の指導を行っているほか、学生相談室での面談並びにオフィスアワーにおいても修学上の問題等について個別の面談や相談を実施している。休退学に関して学生や保護者からの多くの相談に、学生部長、学生部次長、助言教員が個別に丁寧に対応した。

福岡医療短期大学両学科では、出欠の指導を厳格化した。成績不振学生に対する補習授業を土曜日を含めた課外時間に実施するとともに、各期毎に学年担任と助言教員による父兄面談と学生指導を継続して行った。

##### ④ 講義録画システムの充実

福岡歯科大学では、私立学校施設整備費補助金の助成を受け、講義画像を階層的に管理し、

学生の自己学習体制の充実に努めるため、口腔医学教育の推進事業として設置されたマルチメディア装置を、主要な教室へ増設した。

##### ⑤ 学生のアクティブラーニングを推進する環境整備

私立学校施設整備費助金の助成を受け、「図書館閲覧システム」および「セキュリティシステム」を導入した。学内無線LANを利用し、学内や病院内のどこからでも蔵書図書情報検索、オンラインジャーナル閲覧、他校への文献複写依頼などが可能となり、学生のアクティブラーニングによる学力と学習能力の向上が期待される。

福岡医療短期大学歯科衛生学科では、福岡県歯科医療関係職員配置促進事業補助金の助成を受け、専門教育におけるアクティブ・ラーニング型教育の推進のため、2階歯科診療実習室の実習用ユニットを9台、リニューアルした。

##### ⑥ 和式便器の洋式便器化およびウォシュレット化への改善整備

私立学校施設整備費補助金の助成を受け、節水効果の向上のため、学園内の既設和式便器の洋式便器化および洋式便器のウォシュレット化に合わせて、節水型自動洗浄トイレ、節水型自動手洗い器に更新した。

### (2) 高校等との連携推進

福岡歯科大学では、口腔医療・口腔保健・口腔介護を志向する中高生を支援するため、積極的に職場体験を受け入れるとともに、依頼のあった高校に出向いて講義を実施した。また、オープンキャンパスでは模擬実習体験等を通して、参加した中高生の興味に応えた。併せて、高校教員を招聘し、本学の教育の特色等に触れてもらい、終了後の学長、学生部長との懇談会で、率直な意見交換を行った。

福岡医療短期大学では、口腔保健・介護福祉に関心を持つ高校生の修学を支援するため、関連する講義・実習の依頼があった高校に教員が出向き、出張講義・進学ガイダンスを実施した。また、オープンキャンパスでは専門領域に関連

する実習体験を実施し、向学心のある参加学生等に対応した。

### (3) 学生の経済支援の充実

福岡歯科大学では、各種奨学金の案内および手続きを随時行ったほか、経済的に困難な学生に対して授業料減免や学生納付金納付猶予等、関係課とも連携しながら相談に応じた。

福岡医療短期大学では、在学生対象の各種奨学金の周知とその申請手続きの支援等を適宜実施した。また、介護福祉士を目指して学ぶ意欲のある学生が経済的理由で進学や修学を断念することがないように、学生納付金減免制度を引き続き実施した。

### (4) 福岡歯科大学父兄後援会・学生共済会・同窓会との連携

① 8月に17地区で開催された父兄後援会支部懇談会に、本学から学長および役職教員が出席し、本学の現況、学生の学業成績等について説明し、父兄の協力を要請するとともに父兄からの要望も聴取し、支部懇談会終了後の報告会において回答を行った。

② 学生共済会は、3月および5月に理事会と代議員会の合同会議を開催し、学生の支援のために実施する諸事業について審議し、年間の事業計画を決定した。平成26年度は就学共済給付金を2名に給付、一般奨学金貸与は30名、大学院一般奨学金は1名に貸与したほか、会員死亡弔慰金を3名に給付した。

③ 同窓会については、毎年5月に開催される同窓会定時総会懇親会や定例懇談会に理事長他役員が出席し、意見交換を行って連携を図った。また、6月1日には同窓生オープンキャンパスを開催し、理事長、大学長他役職教員等および同窓会役員が出席して、参加された同窓生とその子弟らに学内施設見学や大学および入試の概況説明を行った。

## 2) 学生の受け入れ

### (1) 学生募集活動の強化と多様な選抜方法の策定

アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについては、大学・短大ともにホームページ、大学案内、入学試験要項等で公開し広く周知を図った。

福岡歯科大学では、広報については入試委員会を中心に検討のうえ高校訪問募集活動を見直し、①高校訪問前の担当教員の説明会の徹底、②高校訪問対象校の見直し、③高校訪問時の資料の整備を行ったほか、重点校に対して効率的な高校訪問を行った。指定校については、出願実績の有無、各県での進学校を指定する等の見直しを行い、昨年度の54校から42校とした。

また、昨年度に引き続き、九州内で実施される進学相談会に積極的に参加し、本学の取組等について高校生や保護者に説明した。しかしながら、志願者数は昨年比20%減の306名、競争倍率は2.3倍から1.9倍に下降したが、募集人員96名の学生を確保した。

福岡医療短期大学では、学生募集活動に関する組織的な方策を検討する運営会議において高校生からの大学案内等の資料請求情報の共有とともに、各自の進捗状況の報告や最新情報の提供のための方策を適時検討した。また、保健福祉学科では入学者の授業料減免制度、学生納付金の4期分納制度を継続運用するとともに、福岡県職業訓練制度や修学資金制度を利用した志望学生を積極的に受け入れ、昨年度から2名増の27名（募集人員40名）の入学生を確保した。

歯科衛生学科では、オープンキャンパスにおける「歯科衛生士体験」（平成22年度から実施）が好評であったので、これをシリーズ化して専攻科生による指導を加えて16回実施し、学生の確保に努めた。また高校生対象の進学ガイダンスや出前講義などを実施した結果、84名（募集人員80名）の入学生を確保した。

### (2) 入試広報機能の充実等

オープンキャンパスの申し込みフォームを福岡歯科大学、福岡医療短期大学のホームページ上に開設し、受験生の利便性を高めた。

## 4. 社会との連携・貢献

### 1) 地域連携センター

#### (1) 公開講座、出前講座の開催

大学は、整形外科と口腔外科の連携による公開講座（テーマ：かたひざあごの関節を守る）を10月4日に中央区のよみうりプラザで開催し110名が受講した。好評につき第2弾（テーマ：かたひざの関節を守る）を11月29日に福岡歯科大学で開催し103名が受講した。公開講座終了後、病院見学会を開催し、放射線診断科、

大診療室、リハビリテーション室など37名が見学した。短大は、歯科衛生学科と保健福祉学科の連携による公開講座（テーマ：認知症を考える）を10月5日に福岡医療短期大学で開催し、123名が受講した。また、9月6日には田村校区社会福祉協議会と連携し「人生講座」として大星副病院長による出前講座を実施し、健康の保持増進に関する協力・連携関係を深めた。その他、福岡広域都市圏29カ所で出前講座を

実施した。

## (2) 生涯研修の開催

同窓生や開業歯科医師等を対象とした卒業あるいは生涯研修やセミナー等を開催し、口腔医療を実践できる人材の育成と最新の医療情報の発信に努めた。26年度は大学主催の生涯研修7プログラム(総参加者数:98人)、同窓会等の研修会・セミナー等25回(総参加者数:365人)を開催し、開業医も含めた多くの歯科医師が参加した。

## (3) 歯科医師会との連携

5月に朝倉歯科医師会及び糸島歯科医師会と連携協賛を開始した。朝倉地区については、12月16日に朝倉市保健福祉部および朝倉歯科医師会と協賛を行い、無医地区の高木地区で月1回行われている朝倉医師会の検診に、本学から希望者を対象に歯科検診を行うことや出前講座を開催すること等が検討され、引き続き協賛を行うこととした。また、糸島地区については、9月27日に開催された「健康いとしま21市民の集い」にブース参加した。

## (4) 総合病院との連携

総合病院との連携については、5月から福西会病院と連携し、入院患者への口腔ケアを開始し、3月末現在で426名の診療及び口腔ケアを行った。また、2月には西区の拾六町病院と協賛を開始し、3月に連携協定を締結した。

## (5) 超高齢地区における健康教室の実施

早良区板屋地区において、8月6日に住民健康診断を実施し、9月10日に結果報告、永井副センター長による講演を行った。また、城南区金山公民館で開催されている「カフェたまり場」に本学は11月10日、12月22日、3月2日に「歯の無料相談」コーナーを設け、参加した。

## 2) 医科歯科総合病院

### (1) 患者数等

外来患者・入院患者総数等は表8のとおり。

表8 外来患者・入院患者総数等

	外来患者総数(人)		入院患者総数(人)	
	26年度	対前年比	26年度	対前年比
医科	43,054	4.4%増	7,066	26.3%増
歯科	127,795	2.4%増	3,365	13.8%増
合計	170,849	2.8%増	8,958	21.6%増
1日当	636.3	—	29.9	—
平均在院日数	—	—	10.3日	—
病床稼働率	—	—	59.7%	10.6%増

医療収入は1,506百万円(前年比106百万円増)

であった。

## (2) 安全で良質な医療の提供

### ① 病院管理体制の充実

平成26年4月より病院管理体制を充実させるため、「歯科担当副病院長」および「医科担当副病院長」を配置した。

### ② 診療責任体制の整備・確立

診療の責任体制は診療科長、副科長を定め責任を明確にしており、新患の診察は教授が担当している。病院長を中心に医療事故防止対策委員会・院内感染防止対策委員会においてインシデント・ヒヤリハット分析279件(平成25年度226件)を報告し、問題点の共通認識と問題解決策の検討等を実施した。

### ③ クリティカルパスの見直し

新医療情報システム導入に伴い、クリティカルパスを電子カルテ上に公開し、パスを利用できる体制とした。

なお、平成26年度には3例の新規パスを作成し、パス症例474例を実施した。

### ④ サービスの向上

#### ア) 労災保険指定医療機関の指定

平成26年4月より労災保険指定医療機関の指定を受け、患者の利便性および経費負担軽減を図った。

#### イ) 新医療情報システムの導入

新医療情報システムの導入に伴い、医事情報システムと精算情報システムを一本化し、新たに病院ホールに自動精算機(現金支払機)を導入、会計窓口には、新たにPOSレジシステムを導入し、患者サービスの向上と業務の効率化を図った。

#### ウ) 職員のマナーアップ等

患者のご意見や医療相談室に寄せられた相談133件(平成25年度131件)について、医療相談室およびサービス・マナー向上委員会において検討し、より質の高い医療に向けて医療担当職員および事務職員のマナーアップにつなげる指導等を実践した。また、外来者用駐輪スペースを拡張し環境整備に係る要望について改善を図った。

#### エ) 院内イベントの充実

本学の陶芸同好会学生、写真同好会学生の協力を得て、昨年に引き続き病院ホールにおいて「陶芸展」、「写真展」を開催し、患者さんの「心の癒し」を定例企画として軌道に乗せた。

#### オ) スマートフォン用サイト開設

3月末にはスマートフォン用サイトを開設し、情報発信機能を強化した。

### ⑤ 土曜診療の充実

平成26年度の土曜日における1日外来患者数平均は歯科76.9人(25年度75.3人、24年度71.8人、23年度78.6人)、医科38.0人(25

年度 32.8、24年度 24.7人、23年度 26.6人)、合計 114.9人(25年度 108.1人、24年度 96.4人、平成 23年度 105.2人)と若干増加している。患者数は、平日の5~6分の1程度であるが、土曜日の診療により地域の方々の利便性を確保し、地域貢献を果たしている。

#### ⑥ 歯科医師臨床研修の充実

平成 26年度歯科医師臨床研修は、50名(複合型研修プログラム 44名、単独型研修プログラム 6名)が研修を行い、平成 27年 3月 31日には未修了者 1名を除く 49名に修了証が授与された。

また、5月 14日に研修歯科医指導者 F D 講習会を開催した。講習会には教授 5名、准教授 2名、講師 9名、助教 21名の合計 37名が参加し、評価方法の変更点について周知を図るとともに指導歯科医、研修歯科医からのアンケート結果の分析報告を行った。

研修歯科医の研修と指導は、月 1回のペースで臨床研修実務担当者会、臨床研修委員会を開催し、臨床研修の進行状況を把握、研修の充実とポートフォリオ・日誌の確認を行った。また、基本習熟コースの実績票、態度・積極性・基本的能力の観察記録及び態度・積極性・基本的能力の総括評価について評価方法の改善を図り、26年度より実施した。

この他、協力型臨床研修施設の定期訪問を行い、指導環境や施設基準の確認、問題点の指導を行うとともに、医療安全に関する講習会を開催するなど、協力型臨床研修施設に対し管理型臨床研修施設として管理した。

### (3) 病院管理体制の整備・強化

#### ① 病院情報システム管理体制の確立

「新病院情報システム」のシステム管理を行う実務組織として「医療情報室」を設置し、医療情報室長、兼務教員、事務職員を配置することとし、平成 26年 11月に嘱託事務職員 1名、12月に専任の事務職員 1名を新規に採用した。

また、医療情報システムの円滑な運用を図るため、病院情報システム利用マニュアル、同管理マニュアル、HIS 障害時対応マニュアルを整備した。

#### ② 病診・病病連携体制の確立

平成 26年 5月より、高齢者歯科および総合歯科において、歯科医院等への受診が困難な地域病院の入院患者に対し、口腔ケアや粘膜疾患への対応の指導などを実施し、地域医療機関との連携と地域社会の活性化に取り組んでおり、平成 26年度の訪問回数は 77回であった。

#### ③ 医療経済教育の実施

診療科毎に保険審査委員と各診療科担当者らと勉強会を 11月までに 8回開催し、歯科外来カルテをチェックした。なお、電子カルテ導入後にお

いても歯科カルテチェックリストを作成し、毎月点検している。また、1月からは医科入院カルテの診療科間相互チェックを開始した。

#### ④ 患者増対策

新聞広告、近隣町内会回覧板広告、西鉄バス車内放送、地下鉄車内放送、学園出入口付近看板広告やソーシャルワーカーが紹介実績のある開業医に、当院への紹介の際に使用する紹介状・病院案内等を送付または持参し、他病院の連携室担当者や在宅サービス実施事業所の担当者との連携を図り患者増に努めた。また、「お口と体の無料健康相談」の開催、出前講座「心と体・口・歯の健康の話」講演時にスライドによる病院紹介等を行った。

#### ⑤ 新病院建設に向けた計画

新医科歯科総合病院改築委員会を開催し、診療科代表者等の意見を聴取し、病院の具体的な配置等の検討を行った。今後、開設の時期等も検討予定である。

#### ⑥ 情報公開

平成 26年度 9月 16日より診療録等の開示事務を個人情報保護管理委員会から医療情報システム管理委員会に移行した。なお、26年度の開示件数は、34件(25年度 24件)となっている。その他、病院ホームページで、患者に向けて、耳寄りな話等の情報を随時更新し提供するとともに、医療関係者に向けて広報誌および医科外来担当表の配付等の情報提供を行った。

### 3) 口腔医療センター

#### (1) 患者数等

開院から 4年目を迎え、専任歯科医師 14名、歯科衛生士 12名(3月 1日現在)により、年間患者総数は 28,852人(前年比 16.2%増)、1日平均患者数は 107.5人となった。

#### (2) 三周年記念報告会

開院三周年を記念して、12月 13日に「三周年記念報告会」を開催し、スタッフがそれぞれの業務の現状や課題、今後の展望等について報告を行った。

#### (3) 研修施設としての活用

昨年度に引き続き臨床研修歯科医(単独型プログラム)、福岡歯科大学第 5学年の臨床実習生、福岡医療短期大学専攻科の臨床実地生及び 3年次の臨床実習生を受け入れた。

#### (4) スマートフォン用サイト開設

12月にはスマートフォン用サイトを開設し、情報発信機能を強化した。

### 4) 介護老人保健施設

#### (1) 利用者数

入所利用者数を増やすために、病院の地域連携室、地域公民館、地域包括支援センター、居

宅支援センター等を訪問および電話等で依頼し、利用者拡大に努めたが、平成26年4月の医療保険の改正で、病院の退院先75%を自宅（有料・介護付高齢者住宅を含む）又は在宅強化型・在宅復帰支援機能加算老健へ紹介するようになったこと、福岡市内に有料老人ホーム・介護付高齢者住宅等が平成25年度16件、26年度21件の計37件増加したこと、特養が25年度西区に2施設、26年度に西区1件、早良区1件が新設されたこと等の影響もあり、1日平均77.0人（前年81.2人）となった。

通所利用者数は、地域包括支援センター、居宅支援センター等への利用案内・チラシ配布、送迎地区の拡大、祝日利用日の振替、行事食の毎月実施、希望者によるバスハイク開催、庭園の植栽等の環境美化により、1日平均22.1人（前年15.4人）となった。

サンシャインシティ施設利用者数等は表9のとおり

表9 サンシャインシティ施設利用者数等

利用者 (定員)	年間利用 延数(人)	稼働率(%)	対前年 比	1日当平均 (人)
入所者 (85人)	28,106	90.6	5.3% 減	77.0
通所 (40人)	6,421	55.3	43.4% 増	22.1

## (2) 教育・実習施設としての活用

教育施設として福岡歯科大学および福岡医療短期大学はもとより近隣の福岡大学の医学部および看護学科の実習並び福岡女子高等学校の生徒等の実習施設として、延べ1,549名を対象に福祉実習、登院実習、口腔介護実習等を実施した。また、福岡医療短期大学の介護職員初任者養成研修（第2回）の実施に伴い、9月～3月の間、講義及び実習に総延講師として23人を派遣した。

## (3) 地域貢献

地域協力として、月1回の公園清掃への参加と参加者への体操指導等の講師派遣を実施した。また、11月に開催された「健康まるごと福岡学園」で介護施設見学・介護無料相談を開催した。

## 5) 社会連携

### (1) 大学連携事業

①「地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会」（中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、昨年度に引き続き三大学の特色を生かした教養系共同開講授業科目「食と栄養と健康～ダイエットを科学する～」を開講した。また、地域の健康づくりや疾病予防等を通じて地域社会に貢献するため、4月に一般市民参加のウォーキングイベントを、10月には「高齢社会

を楽しく生きる秘訣とは」をテーマに合同シンポジウムを開催した。

②「西部地区五大学連携懇話会」（九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、単位互換科目を設定するとともに、引き続き五大学共同開講授業科目「博多学」を開講した。また、職員研修の相互開放を実施した。

③「大学ネットワークふくおか」（本学を含む福岡都市圏20大学と福岡市、福岡商工会議所）においては、学生企画イベントやWEBサイト等の広報活動等について協議を行った。

④「九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク（Q-Links）」の活動は、教育活動の発展と推進に寄与することを目的に26年度も活動を継続し、本校はその幹事校として中心的な役割を務めた。

活動としては、12月開催の「Q-Conference 2014」のポスターセッションにおいて、学修成果の可視化に係るポスターを出展し、教職員4名が参加し、他大学参加者との交流等を深めた。

## (2) 公開講座、生涯学習等

本学園では、歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士を養成し、キャンパス内に医科歯科総合病院、介護老人保健施設を設置しているという特色を生かし、超高齢社会における大学の地域貢献のモデルづくり等を目指し、地域貢献（別表5）、公開講座等（別表6）を展開した。

①福岡歯科大学では歯科医師等の生涯学習を支援するため、大学キャンパスでは「口腔インプラント初級講習会」、「口腔インプラント中級講習会」を、口腔医療センターでは「在宅歯科診療に役立つ医科の知識」「歯科臨床に役立つ生活習慣病の知識」「診療にすぐ役立つNiTi Fileテクニック」「鑑別診断力と危機管理能力を目指す」「歯周検査・スケーリングと歯周外科手術の基本と応用」を実施した。

②福岡医療短期大学ではリカレント教育として、文部科学省の委託を受け平成21・22年度に実施した「歯科衛生士の口腔機能向上スキルアップ講座」の経験を踏まえ、歯科衛生士並びに歯科医師の口腔介護のスキルアップを目的として、引き続き、歯科衛生士ならびに歯科医師を対象とする「口腔介護スキルアップ講座」

（5回コース）を実施した。プログラムは口腔ケアおよび口腔機能向上の専門的講義と受講者相互による演習により構成した。全出席した歯科衛生士11名には修了証を授与した。また、本年度も専攻科生が参加し、13名に修了証を授与した。

## 6) 国際連携

### (1) 大学間交流等

## ① 福岡歯科大学

ア) ブリティッシュコロンビア大学歯学部 (カナダ)

4月から5月初旬にかけて2週間、学生4名が同大学歯学部学生交換プログラムに参加した。11月には同大学Shah教授が来学し、学部学生へ特別講義を行った。また、UBCからの学生受入れ及び本学大学院生の派遣について協議を行った。

イ) 上海交通大学口腔医学院 (中国)

4月に日高教授と学生7名が訪問し、見学や臨床講義を受講した。11月から12月にかけての6日間で焦婷教授ら教員2名と学生5名が来学し、同教授による講演や補綴科、口腔外科等の病院実習等を行った。

ウ) 慶熙大学校歯科大学 (韓国)

4月に学生5名が訪問し、見学や臨床講義を受講した。2月にクォン教授と6名の学生が来学し、相互交流を行った。

エ) ヤンゴン歯科大学 (ミャンマー)

12月に同大学創立50周年記念式典に北村学長及び大関教授が出席し、祝意を表するとともに今後の両大学の交流について協議を行った。また、2月に同大学元学長であり、現在ミャンマー歯科審議会会長であるバイソー氏が来学し、特別講演を行った。

オ) 中国医科大学口腔医学院 (中国)

4月に阿南教授ら教員2名と学生6名が訪問し、見学や臨床講義を受講した。9月に周教授

ら教員2名と学生6名が来学し、インプラント科等の模擬実習を行った。

カ) ランシット大学 (タイ)

7月にランシット大学 (タイ) のスチャダ歯学部長が来学し、ロボット実習室等の本学のICTを活用した実技教育装置等を視察した。また、3月にはアティット学長 (元タイ文部大臣、元タイ厚生大臣) 及びスチャダ歯学部長並びにティティポン国際交流担当教員が来学し、シミュレーション実習室、ロボット実習室等を視察された。

キ) 私費外国人留学生の受け入れ

英文ホームページの教員情報の更新を進めるとともに、大学院入試要項の素案を作成した。

## ② 福岡医療短期大学

9月に東釜山大学の歯衛生学科学生35名と教員2名が来学し、歯科衛生学科の3年次生と交流を深めた。

## (2) 海外研修派遣

研究の国際化を図るため、福岡歯科大学では延べ56名の教職員および大学院生を海外研修派遣した (別表7)。その他、第1種研修派遣 (1年以上1年以内の海外派遣) として教員2名、大学院生3名を派遣した。また、福岡医療短期大学では2名の教員を海外研修派遣した (別表7)。

## 5. 組織運営

### 1) 組織運営の改善

#### (1) 大学ガバナンス改革の推進

学長のリーダーシップの下で、戦略的に大学を運営できるガバナンス体制構築に向けた「学校教育法」の改正の趣旨に沿って、「福岡歯科大学学則」等の諸規程・細則を改正等した。

#### (2) 教員組織の見直し

総合歯科医の育成に向けた教員組織の見直しを部長会および教員組織検討委員会で検討している。

#### (3) 教員人事考課制度の見直し

学長主導による「人事考課の確立に向けた客観的評価基準に関する調査研究PT」において教員人事考課制度見直しの検討を行っている。

#### (4) 病院組織の改善

医科歯科総合病院の強化・充実に向け、平成26年2月に病院規程を改正し、4月から副病院長2名を置いた。

#### (5) 柔軟で多様な人事制度の構築

##### ① 優秀な教員確保

福岡歯科大学に重点配置教員を2名、大学院

卒後助教を2名採用し、優秀な教員確保を行った。

##### ② 任期制教員の再任

任期満了となる教員 (大学：教授12名、准教授3名、講師7名、助教6名) (短大：教授3名、准教授2名、助教1名) の再任について、審議の結果、再任申請者全員を再任した。

##### (6) 大学運営の活性化と人材育成等

###### ① 人事考課システムの効果的活用

人事考課の評価基準の見直し、考課基準の平準化を目的として考課者研修を行った。

###### ② 人材育成

事務職員等の資質向上を目指し、学外の各種研修会への参加を促進し、事務職員等延べ78名が能力向上セミナー、資格講習会等に参加した (別表8)。学内では、業務改善等に向け階層別等の研修を行った (別表9)。また、戦略的連携支援事業として、連携大学間で職員の短期研修派遣を行い、鶴見大学に1名を3日間派遣した (別表10)。また、神奈川歯科大学より1名を3日間受入れた。この他、西部地区五大学連携懇話会の職員研修「ビジネスマナ



「基礎研修」等に事務職員4名が参加した(別表11)。

### (7) 国家公務員準拠の給与改定等

国家公務員に準拠し、a) 俸給表の改定 b) 諸手当の改定等 c) 休職者の給与の見直しを行った。

### (8) 役員、監事、学長、役職教員の選任等

#### ① 学長、役職教員の選任

ア) 第478回理事会(平成26年12月16日開催)で、平成27年2月1日付けで大学長に石川博之(矯正歯科学分野・教授)を選任した。任期は、平成30年1月31日まで。

イ) 第480回理事会(平成27年2月17日開催)で、平成27年4月1日付けで病院長に池邊哲郎(口腔外科学分野・教授)、学生部長に岡部幸治(細胞生理学分野・教授)、情報図書館長に佐藤博信(冠橋義歯学分野・教授)、口腔・歯学部門長に坂上竜資(歯周病学分野・教授)、全身管理・医歯学部門長に湯浅賢治(画像診断学分野・教授)、社会医歯学部門長に埴岡隆(口腔健康科学分野・教授)、基礎医歯学部門長に山崎純(分子機能制御学分野・教授)を選任した。任期は、平成30年3月31日まで。

#### ② 役員等の選任

ア) 学校法人福岡学園の理事、監事、評議員の任期が8月2日で満了となることに伴い、第147回評議員会及び第473回理事会(平成26年7月開催)において、新法人役員、評議員を選任した。任期は平成26年8月3日から平成29年8月2日までの3年間。また、第474回理事会(平成26年8月開催)において、理事長に田中健藏理事長を再任、水田祥代常務理事、本田武司常務理事を再任した。なお、新任理事は、多田昭重氏、古谷野潔氏の2名。新任評議員は、前者2名に加えて、大星博明氏、阿南壽氏、江頭啓介氏、持山達彦氏の6名。任期は平成26年8月3日から平成29年8月2日まで。

イ) 平成27年2月11日、田中健藏理事長の逝去に伴い、第481回理事会(平成27年3月3日開催)において、理事長に水田祥代理事長職務代理を選任した。

## 2) 財政基盤の確保

### (1) 第2号基本金の組入れ計画

医科歯科総合病院の改築費用について、今後の資材および人件費の高騰を考慮し、第2号基本金の所要見込総額を100億円から136億円に増額し、平成26年度から31年度の6年間で36億円(毎年6億円)を組入れることとした。

### (2) 資産運用による収入確保

特定資産等の資金運用については、政策的な低金利が続く中で、安全性を優先した運用を行った結果、前年度比で約3,600万円減(△4.2

%)の8億2,500万円となった。

### (3) 外部資金獲得

#### ① 福岡歯科大学

私立学校施設整備費補助金等(平成25年度補正予算含む)に4件が採択された(表10)。

表10 私立学校施設整備費補助金等(単位:千円)

補助区分	事業名	補助額
教育装置	教育用医療デジタル画像作成および配信システム	88,607
ICT推進	マルチメディア装置による低学年の口腔医学基盤教育の推進事業	6,205
エコキャンパス	福岡歯科大学節水型トイレ改修事業	14,563
教育基盤	血液炎症反応迅速測定装置	2,354
	計	111,729

また、昨年度に引き続き、私立大学等改革総合支援事業の対象校(タイプ1)に選定されたことにより、教育研究活性化設備整備費補助金として46,380千円(診療参加型相互臨床実習システム)、私立学校施設整備費補助金として5,406千円(ラーニングコモンズを中心とした学生のアクティブラーニングを推進する環境整備)の助成を受けた。大学改革等推進補助金では、文部科学省の新規事業である大学教育再生加速プログラムに選定され、16,339千円の助成を受けた。このほか、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に係る研究費補助金として47,595千円(再生医学研究:13,599千円、老化制御研究19,426千円、先端科学研究:14,570千円)、研究設備整備費補助金として3,698千円(先端科学研究:リアルタイムPCR解析システム)の助成を受けた。

#### ② 福岡医療短期大学

私立学校施設整備費補助金として、福岡医療短期大学節水型トイレ改修事業が採択され4,357千円の助成を受けた。また、大学改革推進等補助金として、産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業9,481千円の助成を受けたほか、大学と同じく大学教育再生加速プログラムに選定され、21,345千円の助成を受けた。このほか、福岡県福祉・介護人材確保臨時対策事業4,885千円、歯科医療関係職員配置促進事業補助金14,000千円の助成を受けた。

その他の競争的資金の申請件数は32件(前年度21件)であった。また、福岡歯科大学は奨学寄附金として25件(21,174千円)、受託研究として3件(4,021千円)を受け入れた。

### (4) 個人寄附金の受入れ促進

学園ホームページにおいて、本学に寄附をした場合の税制上の優遇措置(税額控除)を周知したほか、学内においても募集活動を行い、3

月末までの個人寄附件数は 139 件で前年度比 35%増、寄附金額は約 107 万円で 42%減となった。

#### (5) 増収に向けた病院の態勢整備等

保険審査委員とカルテチェック責任者を同一とし、歯科カルテチェック責任者に対し保険請求に係る科別指導を 4 回以上実施し、保険診療に関する理解を深め、保険医として備えるべき知識を習得し、正しい診療正しい保険請求を行い、病院収入の確保に努めることとしている。

#### (6) エネルギー使用量の削減

全学的にエネルギー使用量削減に取り組んだ結果、前年度比で、電力使用量 1.8%減、ガス使用量 11.9%減となった。

### 3) 認証評価への対応

#### (1) 福岡歯科大学

大学基準協会へ「改善報告書」を 5 月及び 6 月に送付した。27 年 4 月に協会から回答が送付される予定である。

#### (2) 医科歯科総合病院

平成 24 年度に受審した病院機能評価について、6 月 7 日付けで平成 25 年度から 5 年間、認定された。また、病院機能評価委員会を 4 回開催するとともに防災対策用の担架 4 台を配置する等、次回の認定受審に向けて準備を始めた。

#### (3) 福岡医療短期大学

平成 26 年度の認証評価受審に向けて、全教員が報告書の担当領域の執筆作業と提出資料・備付資料等の収集作業を実施し、6 月に「自己点検・評価報告書」を提出した。10 月 2 日・3 日に訪問調査を受け、評価の結果については、3 月 12 日付けで適格との通知を受けた。

#### (4) 情報公開等の推進

大学ポータルサイトに参画するとともに、更新を継続して行った。また、教育情報の公開については、教育研究活動に関する情報や修学上の情報等についてインターネット上のホームページで積極的に公開した。なお、今年度より各教員の教育業績に関する情報を追加発信し、有用な情報公開に向けて取り組んだ。

財務情報については、財務課に財務書類および事業報告書を設置し、学園の利害関係者から情報公開請求があった際には、速やかに対応できる体制を取っている。また、広く一般の方にも本学の財政状況を正しく理解していただけるよう、ホームページで公開している決算書類の概要説明や図表について、より解り易くする工夫を行った。

### 4) 安全管理および法令遵守

#### (1) 情報化組織および管理体制の整備・充実

① 安全・安心な情報環境を実現するため、全教職員を対象とした「情報セキュリティ講習会」を 8 月、9 月に計 3 回実施した。また、未受講者に対して講習会の動画を Web 上に公開し自由に閲覧できる環境を整備した。併せて受講者全員にアンケートを実施し、対象者全員の受講を確認すると共にアンケート結果を踏まえ今後も継続して講習会を実施する。

② ラーニングコモンズを中心としたアクティブラーニングを推進する環境整備として、平成 26 年度文部科学省私立学校施設整備費補助金を受け、情報図書館蔵書管理システムの設置を行い、27 年 3 月から利用者サービスを開始した。

#### (2) セクシュアル・ハラスメント対策等

ハラスメント防止体制等強化のため、5 月に相談員等 15 名が参加してロールプレイ研修と教職員対象の講演会を実施した。11 月にはメンタルヘルス講習会を実施した。

#### (3) 競争的資金の管理・監査に関する規則の制定等

平成 26 年 2 月に改正された「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」および平成 26 年 8 月に制定された「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、「福岡歯科大学（福岡医療短期大学）競争的資金等の取扱いに関する規則」等の改正等を行った。また、文科省等から求められている研究倫理教育として「CITIJapan」の e-ラーニングを大学院生 17 名（第 1 学年）及び研究者並びに職員 197 名が受講した。

#### (4) 公的研究費の適正管理

11 月 27 日～12 月 2 日に無作為抽出した 22 課題（大学 20 課題、短大 2 課題）のうち、科研費等で購入した備品について、業者伝票と本学伝票との照合及び現物確認を監事と実施した。また、研究者及び公的研究費に係る教職員並びに取引業者のうち、物品等の購入金額における上位 20 社から「誓約書」を徴収し、公的研究費の適正管理を強化した。

### 5) その他

#### (1) 科学研究費助成事業の現地検査

1 月 22 日に日本学術振興会による科学研究費助成事業の現地検査が実施された。今年度改正となったガイドラインへの対応状況及び会計書類の精査、検収現場の確認等が行われ、特段の指摘もなく終了した。

(2) 歯科口腔検診の実施

口腔医学の推進の一環として、健康診断の項目に歯科口腔検診を追加して実施した。(184名が受診、受診率 36.3%)

(3) 叙勲

松本光生名誉教授が、平成 26 年 5 月 13 日に瑞宝小綬章を受章された。

(4) 医学教育等関係業務功労者表彰

医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し、顕著な功労のあった者として、臨床検査室・武内唯織氏及び歯科衛生士・葛城明美氏の 2 名が医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣から表彰された。

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 資金収支の状況

平成 26 年度資金収支計算書の収入額は 120 億 2,226 万 8 千円で、主な項目は、学生生徒等納付金収入 29 億 9,165 万 6 千円、事業収入 21 億 9,745 万 2 千円、資産運用収入 8 億 6,066 万 7 千円、補助金収入 6 億 370 万 8 千円などであった。前年度からの繰越支払資金 7 億 3,054 万 9 千円を加えると、収入合計は 127 億 5,281 万 7 千円となった。

一方、支出額は 118 億 2,535 万円で、主な項目は、人件費支出 38 億 3,567 万 9 千円、教育研究経費支出 15 億 508 万 5 千円、管理経費支出 4 億 1,041 万 5 千円、教育研究用機器備品等の設備関係支出 7 億 3,568 万 4 千円などであった。これにより、収入合計から支出額を差し引いた、次年度繰越支払資金は 9 億 2,746 万 7 千円となった。(別表 12)

#### 2. 消費収支の状況

平成 26 年度消費収支計算書の学生生徒等納付金から雑収入までの帰属収入合計額は 69 億 3,280 万 8 千円で、施設改修工事費及び機器備品取得費等として第 1 号基本金に 5 億 6,565 万 8 千円、病院建設等資金として第 2 号基本金に 6 億円及び学術振興基金等の第 3 号基本金に 2,687 万円、合計 11 億 9,252 万 8 千円を組入れたことにより、消費収入の部合計額は 57 億 4,028 万円となった。

一方、消費支出の部合計額は人件費、教育研究経費、管理経費など 63 億 5,799 万 9 千円で、差引 6 億 1,771 万 9 千円の当年度消費支出超過となった。これに前年度からの繰越消費収入超過額 8 億 558 万 4 千円と基本金取崩額 908 万円を加えた翌年度繰越消費収入超過額は 1 億 9,694 万 5 千円となり、帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額は、5 億 7,480 万 9 千円となった。(別表 13)

#### 3. 貸借対照表

平成 26 年度末(平成 27 年 3 月 31 日)現在の貸借対照表資産の部合計額は前年度比 5 億 9,170 万 6 千円増の 601 億 2,760 万 1 千円となった。負債の部合計額 24 億 4,578 万 4 千円を差引いた正味財産は、576 億 8,181 万 7 千円となり、平成 25 年度に比べ 5 億 7,480 万 9 千円の増となった。(別表 14)

#### 4. 財務比率表

財務比率表の内、貸借対照表関係の総負債比率は 26 年度末で 4.1%となり、全国平均 14.5%を大きく下回った。消費収支計算書関係では、人件費比率 55.0%、教育研究経費比率 29.3%、管理経費比率 7.2%、帰属収支差額比率 8.3%であった。(別表 15)

#### 5. 経年比較

資金収支総括表、消費収支総括表、貸借対照表、財務比率表の経年比較(5年間)及び帰属収入・消費支出構成比率表(別表 16)、年度別推移表(別表 17)を添付した。いずれも順調に推移している。

# 別表 1 平成26年度研究業績（欧文）一覽

[福岡歯科大学]

## 1. 著書

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Evidence-Based control of oral malodor. Book Title: Oral Health, Book Editor: Mandeep Viridi.	Suzuki N, Yoneda M, Hirofuji T	In Tech			801-816	2015

## 2. 総説 (review含む)

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Current status of the techniques used for halitosis analysis.	Yoneda M, Suzuki N, Hirofuji T	Austin Chromatography	2	1	1024	2015
咬合修復学	The current status of the design of resin-bonded fixed partial dentures, splints and overcastings.	Shimizu H, Kawaguchi T, Takahashi Y	Japanese Dental Science Review	50	2	23-28	2014
成長発達歯学	Advanced functional polymers for regenerative and therapeutic dentistry.	Lai WF, Oka K, Jung HS	Oral Diseases			doi:10.1111/odi.12281	2014
機能生物化学	Importance of Diversity in the Oral Microbiota including Candida Species Revealed by High-Throughput Technologies.	Cho T, Nagao J, Imayoshi R, Tanaka Y	International Journal of Dentistry			doi:10.1155/2014/454391	2014

## 3. 原著

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Effects of fatigue from sleep deprivation on experimental periodontitis in rats.	Nakada T, Kato T, Numabe Y	Journal of Periodontal Research	50	1	131-137	2015
	Lactobacillus salivarius WB21-containing tablets for the treatment of oral malodor: a double-blind, randomized, placebo-controlled crossover trial.	Suzuki N, Yoneda M, Tanabe K, Fujimoto A, Iha K, Seno K, Yamada K, Iwamoto T, Masuo Y, Hirofuji T	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology and Oral Radiology	117	4	462-470	2014
	Characterization of the bone matrix and its contribution to tooth loss in human cadaveric mandibles.	Matsuura T, Sasaki M, Katafuchi M, Tokutomi K, Mizumachi E, Makino M, Naito T, Sato H	Acta Odontologica Scandinavica	72	8	753-761	2014
	The detection of Candida species in patients with halitosis.	Koga C, Yoneda M, Nakayama K, Yokoue S, Haraga M, Oie T, Suga A, Okada F, Matsuura H, Tsue F, Suzuki N, Hirofuji T	International Journal of Dentistry			doi:10.1155/2014/857647	2014
	Effects of Lactobacillus salivarius-containing tablets on caries risk factors: a randomized open-label clinical trial.	Nishihara T, Suzuki N, Yoneda M, Hirofuji T	BMC Oral Health	14		110	2014
	A color analysis of smoker's melanosis using a non-contact type dental spectrophotometer.	Ono T, Naito T, Makino M, Sato H	Oral Hygiene & Health	2	5	doi:10.4172/2332-0702.1000160	2014
	Lactobacillus salivarius WB21-containing tablets for the treatment of oral malodor: a double-blind, randomized, placebo-controlled crossover trial--reply to letter.	Suzuki N, Yoneda M, Tanabe K, Fujimoto A, Iha K, Seno K, Yamada K, Iwamoto T, Masuo Y, Hirofuji T	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology and Oral Radiology	118	4	506	2014
	Effects of S-PRG eluate on oral biofilm and oral malodor.	Suzuki N, Yoneda M, Haruna K, Masuo Y, Nishihara T, Nakanishi K, Yamada K, Fujimoto A, Hirofuji T	Archives of Oral Biology	59	4	407-413	2014
Supervised machine learning-based classification of oral malodor based on the microbiota in saliva samples.	Nakano Y, Takeshita T, Kamio N, Shiota S, Shibata Y, Suzuki N, Yoneda M, Hirofuji T, Yamashita Y	Artificial Intelligence in Medicine	60	2	97-101	2014	
口腔治療学	Immunohistochemical study of amelogenin and lysosome-associate membrane proteins (LAMPs) in cartilage	Hatakeyama Y, Hatakeyama J, Oka K, Tsuruga E, Inai T, Sawa Y, Anan H	International Journal of Morphology	32	2	618-626	2014
	Biological and chemical assessment of DNA/Chitosan complex film	Inoue Y, Kawaguchi M, Masui I, Horibe H, Rikimaru T, Kuroki M, Katsumata Y, Mori N, Hayakawa T, Fukushima T	Journal of Hard Tissue Biology	23	4	399-406	2014

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
	The effect of growth differentiation factor-5, 6, 7 in chondrogenic cell differentiation of ATDC-5	Hatakeyama Y, Matsuda Y, Hatakeyama J, Oka K, Anan H, Tsuruga E, Inai T, Ishikawa H, Sawa Y	American Journal of BioScience	2	5	182-186	2014
	Histologic evaluation of the effects of Emdogain gel on injured root apex in rats.	Matsumoto N, Minakami M, Hatakeyama J, Haruna C, Morotomi T, Izumi T, Anan H	Journal of Endodontics	40	12	1989-1994	2014
	Defective adipose tissue development associated with hepatomegaly in cathepsin E-deficient mice fed a high-fat diet.	Kadowaki T, Kido MA, Hatakeyama J, Okamoto K, Tsukuba T, Yamamoto K	Biochemical and Biophysical Research Communications	446	1	212-217	2014
	Milk basic protein supplementation enhances fracture healing in mice.	Yoneme H, Hatakeyama J, Danjo A, Oida H, Yoshinari M, Aijima R, Murata N, Watanabe T, Oki Y, Kido MA	Nutrition	31	2	399-405	2015
	p38 Mitogen-activated protein kinase and c-Jun NH2-terminal protein kinase regulate the accumulation of a tight junction protein, ZO-1, in cell-cell contacts in HaCaT cells.	Minakami M, Kitagawa N, Iida H, Anan H, Inai T	Tissue and Cell	47	1	1-9	2015
	Sphingosine-1-phosphate inhibits differentiation of C3H10T1/2 cells into adipocyte.	Hashimoto Y, Matsuzaki E, Higashi K, Takahashi-Yanaga F, Takano A, Hirata M, Nishimura F	Molecular and Cellular Biochemistry	401	1-2	39-47	2015
	Graphene oxide coating facilitates the bioactivity of scaffold material for tissue engineering	Nishida E, Miyaji H, Takita H, Kanayama I, Tsuji M, Akasaka T, Sugaya T, Sakagami R, Kawanami M	Japanese Journal of Applied Physics			doi:10.7567/JJAP.53.06JD04	2014
	Combination of root surface modification with BMP-2 and collagen hydrogel scaffold implantation for periodontal healing in beagle dogs.	Kato A, Miyaji H, Ishizuka R, Tokunaga K, Inoue K, Kosen Y, Yokoyama H, Sugaya T, Tanaka S, Sakagami R, Kawanami M	Open Dentistry Journal	30	9	52-59	2015
	Comparison of fracture sites and post lengths in longitudinal root fractures.	Sugaya T, Nakatsuka M, Inoue K, Tanaka S, Miyaji H, Sakagami R, Kawamami M	Journal of Endodontics	41	2	159-163	2015
咬合修復学	Characterization of the bone matrix and its contribution to tooth loss in human cadaveric mandibles.	Matsuura T, Sasaki M, Katafuchi M, Tokutomi K, Mizumachi E, Makino M, Naito T, Sato H	Acta Odontologica Scandinavica	72	8	753-761	2014
	Sex-related differences in cortical and trabecular bone quantities at the mandibular molar	Matsuura T, Mizumachi E, Katafuchi M, Tokutomi K, Kido H, Matsuura M, Sato H	Journal of Hard Tissue Biology	23	2	267-274	2014
	Evaluation of bone formation guided by DNA/protamine complex with FGF-2 in an adult rat calvarial defect model.	Shinozaki Y, Toda M, Ohno J, Kawaguchi M, Kido H, Fukushima T	Journal of Biomedical Materials Research. Part B, Applied Biomaterials	102	8	1669-1676	2014
	A color analysis of smoker's melanosis using a non-contact type dental spectrophotometer.	Ono T, Naito T, Makino M, Sato H	Oral Hygiene & Health	2	5	doi:10.4172/2332-0702.1000160	2014
	Influence of water sorption on mechanical properties of injection-molded thermoplastic denture base resins.	Hamanaka I, Iwamoto M, Lassila L, Vallittu P, Shimizu H, Takahashi Y	Acta Odontologica Scandinavica	72	8	859-865	2014
	Effect of heat treatment of polymethyl methacrylate powder on mechanical properties of denture base resin.	Kawaguchi T, Lassila LV, Sasaki H, Takahashi Y, Vallittu PK	Journal of the Mechanical Behavior of Biomedical Materials	39		73-78	2014
	Photothermal stress triggered by near infrared-irradiated carbon nanotubes promotes bone deposition in rat calvarial defects	Yanagi T, Kajiya H, Kawaguchi M, Kido H, Fukushima T	Journal of Biomaterials Applications	29	8	1109-1118	2015
	Mesenchymal stem cell spheroids exhibit enhanced in-vitro and in-vivo osteoregenerative potential.	Yamaguchi Y, Ohno J, Sato A, Kido H, Fukushima T	BMC Biotechnology	14	1	105	2014
	Osteogenic potential for replacing cells in rat cranial defects implanted with a DNA/protamine complex paste.	Toda M, Ohno J, Shinozaki Y, Ozaki M, Fukushima T	Bone	67		237-245	2014
	Three-dimensional finite element analysis of Aramany Class IV obturator prosthesis with different clasp designs.	Hase H, Shinya A, Yokoyama D, Shinya A, Takahashi Y	Dental Materials Journal	33	3	383-388	2014
Distinct characteristics of mandibular bone collagen relative to long bone collagen: relevance to clinical dentistry.	Matsuura T, Tokutomi K, Sasaki M, Katafuchi M, Mizumachi E, Sato H	BioMed Research International			doi:10.1155/2014/769414	2014	

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
咬合修復学	The current status of prosthodontic specialists in Japan--the Japan Prosthodontic Society has played an important role in certification of prosthodontic specialists.	Sato H	Journal of Prosthodontic Research	58	3	150-152	2014
	Zirconia implant with rough surface produced by YAG laser treatment: Evaluation of histomorphology and strength of osseointegration.	Kakura K, Yasuno K, Taniguchi Y, Yamamoto K, Sakai T, Irie A, Kido H	Journal of Hard Tissue Biology	23	1	77-82	2014
成長発達歯学	Immunohistochemical study of amelogenin and lysosome-associate membrane proteins (LAMPs) in cartilage.	Hatakeyama Y, Hatakeyama J, Oka K, Tsuruga E, Inai T, Anan H, Sawa Y	International Journal of Morphology	32	2	618-626	2014
	The effect of growth differentiation factor-5, 6, 7 in chondrogenic cell differentiation of ATDC-5	Hatakeyama Y, Matsuda Y, Hatakeyama J, Oka K, Anan H, Tsuruga E, Inai T, Ishikawa H, Sawa Y	American Journal of BioScience	2	5	182-186	2014
	Osteogenic potential for replacing cells in rat cranial defects implanted with a DNA/protamine complex paste.	Toda M, Ohno J, Shinozaki Y, Ozaki M, Fukushima T	Bone	67		237-245	2014
	Microsatellite genome-wide association study for mandibular prognathism.	Ikuno K, Kajii TS, Oka A, Inoko H, Ishikawa H, Iida J	American Journal of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics	145	6	757-762	2014
口腔・顎顔面外科学	Dynamic changes in cell-surface expression of mannose in the oral epithelium during the development of graft-versus-host disease of the oral mucosa in rats.	Hanada H, Ohno J, Seno K, Ota N, Taniguchi K	BMC Oral Health	14		5	2014
	Epigenetic alterations of the keratin 13 gene in oral squamous cell carcinoma.	Naganuma K, Hatta M, Ikebe T, Yamazaki J	BMC Cancer	14	1	988	2014
総合医学	Testicular sex cord-stromal tumor in a boy with 2q37 deletion syndrome.	Sakai Y, Souzaki R, Yamamoto H, Matsushita Y, Nagata H, Ishizaki Y, Torisu H, Oda Y, Taguchi T, Shaw CA, Hara T	BMC Medical Genomics	7		19	2014
	Altered strategy in short-term memory for pictures in children with attention-deficit/hyperactivity disorder: a near-infrared spectroscopy study.	Sanefuji M, Yamashita H, Torisu H, Imanaga H, Matsunaga M, Ishizaki Y, Sakai Y, Yoshida K, Hara T, Takada Y	Psychiatry Research	223	1	37-42	2014
	Investigation in a murine model of possible mechanisms of enhanced local reactions to post-primary diphtheria-tetanus toxoid boosters in recipients of acellular pertussis-diphtheria-tetanus vaccine.	Ochiai M, Horiuchi Y, Yuen CT, Asokanathan C, Yamamoto A, Okada K, Kataoka M, Markey K, Corbel M, Xing D	Human Vaccines & Immunotherapeutics	10	7	2074-2080	2014
	Phosphate overload directly induces systemic inflammation and malnutrition as well as vascular calcification in uremia.	Yamada S, Tokumoto M, Tatsumoto N, Taniguchi M, Noguchi H, Nakano T, Masutani K, Ooboshi H, Tsuruya K, Kitazono T	American journal of physiology. Renal physiology	306	12	1418-1428	2014
	Relationship between residual renal function and serum fibroblast growth factor 23 in patients on peritoneal dialysis.	Yamada S, Tsuruya K, Taniguchi M, Hasegawa S, Tanaka S, Eriguchi M, Nakano T, Kitazono T, Yoshida H, Tokumoto M	Therapeutic Apheresis and Dialysis	18	5	383-390	2014
	Ototoxicity of gentian violet on the guinea pig cochlea.	Higuchi H, Yamano T, Takase H, Yoshimura H, Nakagawa T, Morizono T	Otology & Neurotology	35	4	743-747	2014
	Involvement of platelet-derived growth factor receptor $\beta$ in fibrosis through extracellular matrix protein production after ischemic stroke.	Makihara N, Arimura K, Ago T, Tachibana M, Nishimura A, Nakamura K, Matsuo R, Wakisaka Y, Kuroda J, Sugimori H, Kamouchi M, Kitazono T	Experimental Neurology	264		127-134	2015
	Nox4 is a major source of superoxide production in human brain pericytes.	Kuroda J, Ago T, Nishimura A, Nakamura K, Matsuo R, Wakisaka Y, Kamouchi M, Kitazono T	Journal of Vascular Research	51	6	429-438	2014
	Clinical characteristics of resistant hypertension evaluated by ambulatory blood pressure monitoring.	Kansui Y, Matsumura K, Kida H, Sakata S, Ohtsubo T, Ibaraki A, Kitazono T	Clinical and Experimental Hypertension	36	7	454-458	2014

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
総合医学	Characteristics of group B Streptococcus isolated from infants with invasive infections: a population-based study in Japan.	Chang B, Wada A, Hosoya M, Oishi T, Ishiwada N, Oda M, Sato T, Terauchi Y, Okada K, Nishi J, Akeda H, Kamiya H, Ohnishi M, Ihara T; Japanese Invasive Disease Study Group	Japanese Journal of Infectious Diseases	67	5	356-360	2014
	Pediatric Rheumatology Association of Japan recommendation for vaccination in pediatric rheumatic diseases.	Kobayashi I, Mori M, Yamaguchi KI, Ito S, Iwata N, Masunaga K, Shimojo N, Ariga T, Okada K, Takei S	Modern Rheumatology	10		1-9	2014
	Impact of the 1425G/A polymorphism of PRKCH on the recurrence of ischemic stroke: Fukuoka Stroke Registry.	Matsuo R, Ago T, Hata J, Wakisaka Y, Sugimori H, Kitazono T, Kamouchi M, FSR Investigators, Ooboshi H	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases	23	6	1356-1361	2014
	Thrombolytic therapy with intravenous recombinant tissue plasminogen activator in Japanese older patients with acute ischemic stroke: Fukuoka Stroke Registry.	Matsuo R, Kamouchi M, Ago T, Hata J, Shono Y, Kuroda J, Wakisaka Y, Sugimori H, Kitazono T, FSR investigators, Ooboshi H	Geriatrics and Gerontology International	14	4	954-959	2014
	Plasma S100A12 is associated with functional outcome after ischemic stroke: Research for Biomarkers in Ischemic Stroke.	Wakisaka Y, Ago T, Kamouchi M, Kuroda J, Matsuo R, Hata J, Gotoh S, Isomura T, Ooboshi H, Kitazono T, REBIOS Investigators	Journal of the Neurological Sciences	340	1-2	75-79	2014
	Fibroblast growth factor 23, but not parathyroid hormone, is associated with urinary phosphate regulation in patients on peritoneal dialysis.	Yamada S, Tsuruya K, Tokumoto M, Yoshida H, Hasegawa S, Tanaka S, Eriguchi M, Nakano T, Masutani K, Ooboshi H, Kitazono T	Therapeutic Apheresis and Dialysis	19	1	73-80	2015
	Renal denervation has blood pressure-independent protective effects on kidney and heart in a rat model of chronic kidney disease.	Eriguchi M, Tsuruya K, Haruyama N, Yamada S, Tanaka S, Suehiro T, Noguchi H, Masutani K, Torisu K, Kitazono T	Kidney International	87	1	116-127	2015
口腔保健学	Acquisition of optimal attribute subset through genetic algorithm using GNP-based class association rule mining	Zhang R, Shimada K, Mabu S, Hirasawa K	IEEJ Transactions on Electrical and Electronic Engineering	9	4	398-406	2014
	An evolutionary method for exceptional association rule set discovery from incomplete database	Shimada K, Hanioka T	Lecture Notes in Computer Science	8649		133-147	2014
	Daily smoking may independently predict caries development in adults.	Hanioka T, Ojima M, Tanaka K	The Journal of Evidence-Based Dental Practice	14	3	151-153	2014
	Calcium intake is associated with decreased prevalence of periodontal disease in young Japanese women.	Tanaka K, Miyake Y, Okubo H, Hanioka T, Sasaki S, Miyatake N, Arakawa M	Nutrition Journal	13		109	2014
機能生物化学	Role of Auf1 in elimination of oxidatively damaged messenger RNA in human cells.	Ishii T, Hayakawa H, Sekiguchi T, Adachi N, Sekiguchi M	Free Radical Biology and Medicine	79C		109-116	2014
	JNK is critical for the development of Candida albicans-induced vascular lesions in a mouse model of Kawasaki disease.	Yoshikane Y, Koga M, Imanaka-Yoshida K, Cho T, Yamamoto Y, Yoshida T, Hashimoto J, Hirose S, Yoshimura K	Cardiovascular Pathology	24	1	33-40	2015
	Bactericidal activity of nukacin ISK-1: an alternative mode of action.	Roy U, Islam MR, Nagao J, Abdullah-Al M, Zendo T, Nakayama J, Sonomoto K	Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry	78	7	1270-1273	2014
歯科医療工学	Biological and chemical assessment of DNA/Chitosan complex film	Inoue Y, Kawaguchi M, Masui I, Horibe H, Rikimaru T, Kuroki M, Katsumata Y, Mori N, Hayakawa T, Fukushima T	Journal of Hard Tissue Biology	23	4	399-406	2014
	Evaluation of bone formation guided by DNA/protamine complex with FGF-2 in an adult rat calvarial defect model.	Shinozaki Y, Toda M, Ohno J, Kawaguchi M, Kido H, Fukushima T	Journal of Biomedical Materials Research. Part B, Applied Biomaterials	102	8	1669-1676	2014



所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
歯科医療工学	Effects of proliferation and differentiation of mesenchymal stem cells on compressive mechanical behavior of collagen/ $\beta$ -TCP composite scaffold.	Arahira T, Todo M	Journal of the Mechanical Behavior of Biomedical Materials	39		218-230	2014
	Photothermal stress triggered by near infrared-irradiated carbon nanotubes promotes bone deposition in rat calvarial defects	Yanagi T, Kajiya H, Kawaguchi M, Kido H, Fukushima T	Journal of Biomaterials Applications	29	8	1109-1118	2015
生体構造学	Inhibition of JNK in HaCaT cells induced tight junction formation with decreased expression of cytokeratin 5, cytokeratin 17 and desmoglein 3.	Kitagawa N, Inai Y, Higuchi Y, Iida H, Inai T	Histochemistry and Cell Biology	142	4	389-399	2014
	Immunohistochemical study of amelogenin and lysosome-associate membrane proteins (LAMPs) in cartilage	Hatakeyama Y, Hatakeyama J, Oka K, Tsuruga E, Inai T, Sawa Y, Anan H	International Journal of Morphology	32	2	618-626	2014
	Dynamic changes in cell-surface expression of mannose in the oral epithelium during the development of graft-versus-host disease of the oral mucosa in rats.	Hanada H, Ohno J, Seno K, Ota N, Taniguchi K	BMC Oral Health	14		5	2014
	The effect of growth differentiation factor-5, 6, 7 in chondrogenic cell differentiation of ATDC-5	Hatakeyama Y, Matsuda Y, Hatakeyama J, Oka K, Anan H, Tsuruga E, Inai T, Ishikawa H, Sawa Y	American Journal of BioScience	2	5	182-186	2014
	Evaluation of bone formation guided by DNA/protamine complex with FGF-2 in an adult rat calvarial defect model.	Shinozaki Y, Toda M, Ohno J, Kawaguchi M, Kido H, Fukushima T	Journal of Biomedical Materials Research. Part B, Applied Biomaterials	102	8	1669-1676	2014
	Mesenchymal stem cell spheroids exhibit enhanced in-vitro and in-vivo osteoregenerative potential.	Yamaguchi Y, Ohno J, Sato A, Kido H, Fukushima T	BMC Biotechnology	14	1	105	2014
	Osteogenic potential for replacing cells in rat cranial defects implanted with a DNA/protamine complex paste.	Toda M, Ohno J, Shinozaki Y, Ozaki M, Fukushima T	Bone	67		237-245	2014
生体構造学	p38 Mitogen-activated protein kinase and c-Jun NH2-terminal protein kinase regulate the accumulation of a tight junction protein, ZO-1, in cell-cell contacts in HaCaT cells.	Minakami M, Kitagawa N, Iida H, Anan H, Inai T	Tissue and Cell	47	1	1-9	2015
	Molecular cloning and subcellular localization of Tektin2-binding protein 1 (Ccdc 172) in rat spermatozoa.	Yamaguchi A, Kaneko T, Inai T, Iida H	The Journal of Histochemistry and Cytochemistry	62	4	286-297	2014
	$\beta$ -cell induction in vivo in severely diabetic male mice by changing the circulating levels and pattern of the ratios of estradiol to androgens.	Inada A, Inada O, Fujii NL, Fujishima K, Inai T, Fujii H, Sueishi K, Kurachi K	Endocrinology	155	10	3829-3842	2014
細胞分子生物学	Endogenous and exogenous hydrogen sulfide facilitates T-type calcium channel currents in Cav3.2-expressing HEK293 cells.	Sekiguchi F, Miyamoto Y, Kanaoka D, Ide H, Yoshida S, Ohkubo T, Kawabata A	Biochemical and Biophysical Research Communications	445	1	225-229	2014
	Epigenetic alterations of the keratin 13 gene in oral squamous cell carcinoma.	Naganuma K, Hatta M, Ikebe T, Yamazaki J	BMC Cancer	14	1	988	2014
	Photothermal stress triggered by near infrared-irradiated carbon nanotubes promotes bone deposition in rat calvarial defects.	Yanagi T, Kajiya H, Kawaguchi M, Kido H, Fukushima T	Journal of Biomaterials Applications	29	8	1109-1118	2015
先端科学研究センター	Role of Auf1 in elimination of oxidatively damaged messenger RNA in human cells.	Ishii T, Hayakawa H, Sekiguchi T, Adachi N, Sekiguchi M	Free Radical Biology and Medicine	79C		109-116	2014
再生医学研究センター	Biological and chemical assessment of DNA/Chitosan complex film	Inoue Y, Kawaguchi M, Masui I, Horibe H, Rikimaru T, Kuroki M, Katsumata Y, Mori N, Hayakawa T, Fukushima T	Journal of Hard Tissue Biology	23	4	399-406	2014
	Evaluation of bone formation guided by DNA/protamine complex with FGF-2 in an adult rat calvarial defect model.	Shinozaki Y, Toda M, Ohno J, Kawaguchi M, Kido H, Fukushima T	Journal of Biomedical Materials Research. Part B, Applied Biomaterials	102	8	1669-1676	2014
	Mesenchymal stem cell spheroids exhibit enhanced in-vitro and in-vivo osteoregenerative potential.	Yamaguchi Y, Ohno J, Sato A, Kido H, Fukushima T	BMC Biotechnology	14	1	105	2014
	Photothermal stress triggered by near infrared-irradiated carbon nanotubes promotes bone deposition in rat calvarial defects	Yanagi T, Kajiya H, Kawaguchi M, Kido H, Fukushima T	Journal of Biomaterials Applications	29	8	1109-1118	2015

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
再生医学研究センター	Osteogenic potential for replacing cells in rat cranial defects implanted with a DNA/protamine complex paste.	Toda M, Ohno J, Shinozaki Y, Ozaki M, Fukushima T	Bone	67		237-245	2014
老化制御研究センター	Role of Auf1 in elimination of oxidatively damaged messenger RNA in human cells.	Ishii T, Hayakawa H, Sekiguchi T, Adachi N, Sekiguchi M	Free Radical Biology and Medicine	79C		109-116	2014
口腔医療センター	The detection of Candida species in patients with halitosis.	Koga C, Yoneda M, Nakayama K, Yokoue S, Haraga M, Oie T, Suga A, Okada F, Matsuura H, Tsue F, Suzuki N, Hirofuji T	International Journal of Dentistry			doi:10.1155/2014/857647	2014
	Lactobacillus salivarius WB21-containing tablets for the treatment of oral malodor: a double-blind, randomized, placebo-controlled crossover trial.	Suzuki N, Yoneda M, Tanabe K, Fujimoto A, Iha K, Seno K, Yamada K, Iwamoto T, Masuo Y, Hirofuji T	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology and Oral Radiology	117	4	462-470	2014

#### 4.症例報告

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Persistent oral malodor associated with periodontitis caused by tooth perforation.	Yoneda M, Suzuki N, Fujimoto A, Morita H, Uemura R, Koga C, Hirofuji T	Aperito Journal of Oral Health and Dentistry	1	1	102	2015
総合医学	Girl with a PRRT2 mutation and infantile focal epilepsy with bilateral spikes.	Torisu H, Watanabe K, Shimojima K, Sugawara M, Sanefuji M, Ishizaki Y, Sakai Y, Yamashita H, Yamamoto T, Hara T	Brain and Development	36	4	342-345	2014
	Hypercalcemia induced by Rosai-Dorfman disease in a hemodialysis patient: histological evidence of extrarenal calcitriol overproduction.	Yamada S, Uemura M, Toumoto M, Nagara T, Hideko N, Hirahashi M, Nakano T, Tsuruya K, Kitazono T	Internal Medicine	53	24	2783-2787	2014
	Tocilizumab-induced remission of nephrotic syndrome accompanied by secondary amyloidosis and glomerulonephritis in a patient with rheumatoid arthritis	Yamada S, Tsuchimoto A, Kaizu Y, Taniguchi M, Masutani K, Tsukamoto H, Ooboshi H, Tsuruya K, Kitazono T	CEN Case Reports	3	2	237-243	2014
	A case of bacterial peritonitis caused by Roseomonas mucosa in a patient undergoing continuous ambulatory peritoneal dialysis	Matsukuma Y, Sugawara K, Shimano S, Yamada S, Tsuruya K, Kitazono T, Higashi H	CEN Case Reports	3	2	127-131	2014
	A CADASIL-Like case with a novel noncysteine mutation of the NOTCH3 gene and granular deposits in the renal arterioles	Nakamura K, Ago T, Tsuchimoto A, Noda N, Nakamura A, Ninomiya T, Uchiumi T, Tsuruya K, Kamouchi M, Ooboshi H, Kitazono T	Case Reports in Neurological Medicine	2015		doi:10.1155/2015/431461	2015
咬合修復学	An alternative approach for reducing complicated symptoms related to nonfunctional tooth contact: A case report	Matsuura T, Mizumachi E, Sato H	Oral Health and Dental Management	13	4	1052-1055	2014
口腔・顎顔面外科学	A case of mucositis due to the allergy to self-curing resin.	Hashimoto K, Naganuma K, Yamashita Y, Ikebe T, Ozeki S	Oral Science Internathinal	11	1	37-39	2014
口腔医療センター	Persistent oral malodor associated with periodontitis caused by tooth perforation.	Yoneda M, Suzuki N, Fujimoto A, Morita H, Uemura R, Koga C, Hirofuji T	Aperito Journal of Oral Health and Dentistry	1	1	102	2015

#### [福岡医療短期大学]

##### 1.原著

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
歯科衛生学科	Biological and chemical assessment of DNA/Chitosan complex film	Inoue Y, Kawaguchi M, Masui I, Horibe H, Rikimaru T, Kuroki M, Katsumata Y, Mori N, Hayakawa T, Fukushima T	Journal of Hard Tissue Biology	23	4	399-406	2014

## 別表 2 再生医学研究センター 平成 25 年度研究成果報告会プログラム

平成 26 年 6 月 6 日 (木) 13:15-18:30

福岡歯科大学 本館 504 講義室

13:15-13:20	挨拶
13:20-13:35	「炭酸アパタイト系骨補填材の創製」 松家 茂樹(歯科医療工学講座生体工学分野)
13:35-13:50	「DNA/プロタミン複合体の骨形成用スキャホールド材としての有効性」 福島 忠男(再生医学研究センター)
13:50-14:05	「温熱付加による骨形成促進効果の検討」 川口 稔(歯科医療工学講座材料工学分野)
14:05-14:20	「骨疾患病態モデルへの温熱刺激を利用した骨再生促進効果」 鍛冶屋 浩(細胞分子生物学講座 細胞生理学分野)
14:20-14:35	「口腔粘膜上皮の細胞間透過性の研究 - HaCaT 細胞の二次元培養によるタイト結合形成系の確立 -」 稲井 哲一朗(生体構造学講座機能構造学分野)
14:35-14:55	休憩
14:55-15:10	「PS リポソームを応用した骨再生法の開発」 阿南 壽(口腔治療学講座 歯科保存学分野)
15:10-15:25	「Sr-BAG 粒子を含有した、骨形成を促進するセメントの作製」 泉 利雄(口腔治療学講座 歯科保存学分野)
15:25-15:40	「線維芽細胞三次元培養系における石灰化促進因子の検討」 山崎 純(細胞分子生物学講座 分子機能制御学分野)
15:40-15:55	「象牙質-歯髄複合体再生療法の確立を目的とした歯髄の熱耐性誘導法と新規象牙質補填材料の開発」 諸富 孝彦(九州歯科大学 口腔保存治療学分野)
15:55-16:10	「プロタミンペプチドの抗真菌活性と応用へのアプローチ」 長 環(機能生物化学講座 感染生物学分野)
16:10-16:30	休憩
16:30-16:40	「レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系(RAAS)による血管平滑筋細胞(VSMC)の形質変化制御システムと硬組織再生に関する研究」 山田 俊輔(総合医学講座 内科学分野)
16:40-16:50	「ペリサイトにおける bFGF シグナルが虚血性傷害時の血管・組織再生に果たす役割」 中村 晋之(総合医学講座 内科学分野)
16:50-17:00	「軟骨再生における Growth/Differentiation Factors の機能的差異に関する検討」 畠山 雄次(生体構造学講座 機能構造学分野)
17:00-17:10	「間葉系幹細胞から骨芽細胞への運命決定における FoxO1 の役割」 八田 光世(細胞分子生物学講座 分子機能制御学分野)

17:10-17:20	「歯根・歯根膜形成における歯原性上皮の役割」 板家 智(成長発達歯学講座 成育小児歯科学分野)
17:20-17:30	「レーザー粗面処理を行ったチタンインプラントへの DNA/プロタミン複合体の有用性」 加倉 加恵(咬合修復学講座 口腔インプラント学分野)
17:30-17:40	「骨芽細胞の分化にジルコニアの表面性状が及ぼす影響」 谷口 祐介(咬合修復学講座 口腔インプラント学分野)
17:40-17:50	「骨髄由来間葉系幹細胞のスフェロイドを用いた骨再生効果促進」 山口 雄一郎(咬合修復学講座 口腔インプラント学分野)
17:50-18:00	「歯の発生におけるアメロジェニンスプライミングバリエーションの発現解析」 畠山 純子(口腔治療学講座 歯科保存学分野)
18:00-18:10	「界面組織工学に基づいた有機・無機複合系 scaffold と間葉系幹細胞による人工軟骨-骨組織再生に関する基礎的研究」 荒平 高章(歯科医療工学講座 生体工学分野)
18:10-18:20	「上皮組織のバリア機能に対する抗菌ペプチドの作用」 北河 憲雄(生体構造学講座 機能構造学分野)
閉会の挨拶	

別表3 平成26年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡歯科大学】

(単位：千円)

区分 種類		平成25年度						平成26年度						前年度比較増減(H26-H25)						
		申請 件数	申請額	内定 件数	内定額			申請 件数	申請額	内定 件数	内定額			申請 件数	申請額	内定 件数	内定額			
					直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計	
文部科学省	新学術領域研究	新規	0	0	1	2,200	660	2,860	1	45,000	0	0	0	0	1	45,000	-1	-2,200	-660	-2,860
		継続	0	0	0	0	0	0	1	2,200	1	2,200	660	2,860	1	2,200	1	2,200	660	0
	特定領域研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	若手研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	新規	0	0	1	2,200	660	2,860	1	45,000	0	0	0	0	1	45,000	-1	-2,200	-660	-2,860
		継続	0	0	0	0	0	0	1	2,200	1	2,200	660	2,860	1	2,200	1	2,200	660	2,860
文科省合計		0	0	1	2,200	660	2,860	2	47,200	1	2,200	660	2,860	2	47,200	0	0	0	0	
日本学術振興会	基盤研究(S)	新規	1	40,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-1	-40,000	0	0	0	0	
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	基盤研究(A)	新規	2	58,600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-2	-58,600	0	0	0	
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	基盤研究(B)	新規	10	89,908	1	6,300	1,890	8,190	9	75,248	1	6,600	1,980	8,580	-1	-14,660	0	300	90	390
		継続	4	12,000	4	12,000	3,600	15,600	3	8,400	3	8,400	2,520	10,920	-1	-3,600	-1	-3,600	-1,080	-4,680
	基盤研究(C)	新規	46	96,095	10	14,400	4,320	18,720	60	126,370	6	8,800	2,640	11,440	14	30,275	-4	-5,600	-1,680	-7,280
		継続	20	20,400	20	20,400	6,120	26,520	20	20,400	20	21,400	6,420	27,820	0	0	0	1,000	300	1,300
	挑戦的 萌芽研究	新規	22	49,389	4	7,600	2,280	9,880	19	40,636	2	4,100	1,230	5,330	-3	-8,753	-2	-3,500	-1,050	-4,550
		継続	2	2,500	2	2,500	750	3,250	2	2,500	5	4,500	1,350	5,850	0	0	3	2,000	600	2,600
	若手研究(B)	新規	68	140,691	7	10,700	3,210	13,910	63	118,923	9	9,000	2,700	11,700	-5	-21,768	2	-1,700	-510	-2,210
		継続	9	8,700	9	8,700	2,610	11,310	9	8,700	8	7,700	2,310	10,010	0	0	-1	-1,000	-300	-1,300
	研究活動 スタート支援	新規	10	14,357	1	1,100	330	1,430	14	20,330	2	2,200	660	2,860	4	5,973	1	1,100	330	1,430
		継続	1	400	0	0	0	0	1	1,000	1	1,000	300	1,300	0	600	1	1,000	300	1,300
小計	新規	159	489,040	23	40,100	12,030	52,130	165	381,507	20	30,700	9,210	39,910	6	-107,533	-3	-9,400	-2,820	-12,220	
	継続	36	44,000	35	43,600	13,080	56,680	35	41,000	37	43,000	12,900	55,900	-1	-3,000	2	-600	-180	-780	
	学振合計	195	533,040	58	83,700	25,110	108,810	200	422,507	57	73,700	22,110	95,810	5	-110,533	-1	-10,000	-3,000	-13,000	
合計	新規	159	489,040	24	42,300	12,690	54,990	166	426,507	20	30,700	9,210	39,910	7	-62,533	-4	-11,600	-3,480	-15,080	
	継続	36	44,000	35	43,600	13,080	56,680	36	43,200	38	45,200	13,560	58,760	0	-800	3	1,600	480	2,080	
	総合計	195	533,040	59	85,900	25,770	111,670	202	469,707	58	75,900	22,770	98,670	7	-63,333	-1	-10,000	-3,000	-13,000	

別表4 平成26年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡医療短期大学】

(単位：千円)

区分	種類	平成25年度						平成26年度						前年度比較増減(H26-H25)							
		申請 件数	申請額	内定 件数	内定額			申請 件数	申請額	内定 件数	内定額			申請 件数	申請額	内定 件数	内定額				
					直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計		
文科科学省	特別推進研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特定領域研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	若手研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	文科省合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本学術振興会	基盤研究(S)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(B)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(C)	新規	1	1,194	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-1	-1,194	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	挑戦的 萌芽研究	新規	9	17,620	2	2,200	660	2,860	8	14,080	3	2,900	870	3,770	-1	-3,540	1	700	210	910	910
		継続	3	1,700	3	1,700	510	2,210	2	2,400	4	2,400	720	3,120	-1	700	1	700	210	910	910
	若手研究(B)	新規	4	7,836	1	600	180	780	4	8,833	0	0	0	0	0	997	-1	-600	-180	-780	-780
		継続	1	1,200	1	1,200	360	1,560	2	1,800	2	1,800	540	2,340	1	600	1	600	180	780	780
	研究活動 スタート支援	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	新規	14	26,650	3	2,800	840	3,640	12	22,913	3	2,900	870	3,770	-2	-3,737	0	100	30	130	130	
	継続	4	2,900	4	2,900	870	3,770	4	4,200	6	4,200	1,260	5,460	0	1,300	2	1,300	390	1,690	1,690	
	学振合計	18	29,550	7	5,700	1,710	7,410	16	27,113	9	7,100	2,130	9,230	-2	-2,437	2	1,400	420	1,820	1,820	
合計	新規	14	26,650	3	2,800	840	3,640	12	22,913	3	2,900	870	3,770	-2	-3,737	0	100	30	130	130	
	継続	4	2,900	4	2,900	870	3,770	4	4,200	6	4,200	1,260	5,460	0	1,300	2	1,300	390	1,690	1,690	
	総合計	18	29,550	7	5,700	1,710	7,410	16	27,113	9	7,100	2,130	9,230	-2	-2,437	2	1,400	420	1,820	1,820	

## 別表 5 平成 26 年度地域貢献一覽表

実施事業	内 容
運動場、テニスコート、体育館の開放	地元ソフトボールチーム、野球チーム、子供ラグビークラブを始め早良区壮年ソフトボール大会等、ほぼ毎週運動場、テニスコート、ラグビー場、体育館等体育施設の地域への開放を行った。
公園清掃	田新町が町内行事として月 1 回実施している田村北公園の清掃に介護老人保健施設等の職員が毎回 3 名参加し、地域との交流を深めるとともに、清掃後、理学療法士等によるリハビリ体操の指導を行った。
学園祭での交流	学園近郊の地域子供会で組織するダンスチーム（四箇田キッズダンス、田村・四箇田・入部スマイルキッズダンス）や地域の太鼓演奏が学園祭にゲスト出演し、イベント会場を盛り上げた。また、地域団体が学園祭に模擬店を出店した。
地下鉄マナーアップキャンペーン	福岡市交通局主催のマナーアップキャンペーンに学友会を代表して、ラグビー・フットボール部及び放送部の学生が 6 月，7 月，9 月にボランティア活動として乗車マナーアップを呼びかけた。
福岡医療短期大学教員ボランティア活動	地域交流並びに地域活性化ボランティア活動の取り組みとして、キャンパス内のさくら館において定期的に行われている地元田新町老人会「親和会」の集いに短大教員並びに専攻科学生が毎月担当を決めて参加し、情報提供を行っている。平成 25 年度は計 12 回参加した。

## 別表 6 平成 26 年度公開講座一覧表

名 称	開催日・会場	テーマ・参加人員
出前講座	平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月まで (市内公民館、小学校等)	市内公民館、小学校などを対象に、本学の教授、准教授等が「心と体・口・歯の健康の話」をテーマに、29 箇所の出前講義を行った。
平成 26 年度福岡歯科大学臨床セミナー	平成 26 年 4 月から 27 年 3 月まで (福岡歯科大学本館 5 階 504 講義室他)	医療関係者を対象に通算 25 回実施した。 参加者延べ 1,357 名(臨床研修歯科医を含む)。
老化制御研究センターセミナー	平成 26 年 4 月 16 日 (福岡歯科大学)	老化制御に関する研究を行っている学内・学外研究者 5 名の講演 参加者約 40 名
福岡市民の歯を守る集い	平成 26 年 6 月 8 日 (福岡県歯科医師会館)	福岡市主催。一般対象の相談コーナー(口臭、口腔外科、小児歯科、禁煙)を開設。 参加者 836 名
老化制御研究センター第二回研究発表会	平成 26 年 7 月 30 日 (福岡歯科大学)	老化制御に関する研究を行っている学内研究者 13 名の講演 参加者約 50 名
福岡歯科大学公開講座	平成 26 年 10 月 4 日 (よみうりプラザ)	「かた・ひざ・あごの関節を守るー関節の痛みの予防と治療」 ① かたとひざの痛みの予防 ② かたとひざの痛みの診断と治療 ③ 顎(がく)関節症の予防と治療 参加者 110 名
「健康まるごと福岡学園」	平成 26 年 10 月 25 日 ～26 日 (福岡学園)	1. からだの科学展 2. 第 10 回地下鉄七隈線沿線 3 大学合同シンポジウム「高齢社会を楽しく生きる秘訣とは」 3. 医科ミニ講座・歯科無料相談 4. 介護施設見学・介護無料相談 5. 短大企画「口から始める介護予防」 各イベント参加者合計 1,926 人
平成 26 年度地下鉄七隈線沿線 3 大学合同シンポジウム	平成 26 年 10 月 26 日 (福岡歯科大学 講堂)	メインテーマ「高齢社会を楽しく生きる秘訣とは」 第一部講演、第二部公開討論(参加者からの質問に回答する形式)。 本学、福岡大学、中村学園大学合同開催。 参加者 182 名
再生医学研究センターシンポジウム	平成 26 年 10 月 31 日 (福岡歯科大学)	再生医療の研究を行っている学外シンポジスト 1 名による講演 参加者 24 名
福岡歯科大学学会総会特別講演	平成 26 年 12 月 14 日 (福岡歯科大学)	テーマ「予防口腔医学の推進」 4 名のシンポジストによる講演後質疑応答 参加者 290 名



名 称	開催日・会場	テーマ・参加人員
戦略的大学連携支援事業 口腔医学シンポジウム	平成 26 年 1 月 12 日 (福岡歯科大学)	テーマ「歯周医学 ～歯周病と全身疾患(病診連携による生活習慣病対策)～」 3 名のシンポジストによる講演後、講演者による討論 参加者 181 名
大学院特別講義	平成 26 年 4 月 16 日 ～平成 27 年 3 月 26 日 (福岡歯科大学 504 講義室他)、全 6 回(内 2 回は再生医学研究センターシンポジウムと老化制御研究センターセミナー)	九州大学、大阪大学、九州大学大学院、ニューヨーク大学、東北大学大学院等の教授らによる講義が行われた。
口腔インプラント 中級講習会 (生涯研修)	平成 26 年 10 月 26 日 ～平成 27 年 2 月 8 日 (口腔医療センター)	テーマ「エビデンスに基づく口腔インプラント治療」 全 5 回シリーズの研修 参加者 11 名
口腔インプラント 初級講習会 (生涯研修)	平成 26 年 5 月 18 日 ～平成 26 年 9 月 21 日 (福岡歯科大学)	実習を多く取り入れた実践的研修 全 5 回シリーズの研修 参加者 12 名
在宅歯科医療に役立つ医科の知識 (生涯研修)	平成 26 年 9 月 7 日 ～平成 26 年 10 月 5 日 (口腔医療センター)	医師と歯科医師が連携して行う講義形式の研修 全 3 回シリーズの研修 参加者 18 名
歯科臨床に役立つ生活習慣病の知識 (生涯研修)	平成 26 年 11 月 2 日 ～平成 26 年 11 月 30 日 (口腔医療センター)	医師と歯科医師が連携して行う講義形式の研修 全 3 回シリーズの研修 参加者 14 名
診療にすぐに役立つ最新の NiTi File テクニック (生涯研修)	平成 27 年 1 月 14 日 ～平成 27 年 1 月 21 日 (口腔医療センター)	歯内治療の新たなテクニックを実践的に学べる研修 全 2 回シリーズの研修 参加者 14 名
鑑別診断力と危機管理能力の向上をめざす(生涯研修)	平成 27 年 1 月 25 日 ～平成 27 年 2 月 22 日 (口腔医療センター)	口腔外科、麻酔科、放射線科の教員による講習会 全 3 回シリーズの研修 参加者 22 名
歯周検査・スケーリングと歯周外科手術の基本と応用 (生涯研修)	平成 27 年 1 月 28 日 ～平成 27 年 3 月 11 日 (口腔医療センター)	実習を多く取り入れた実践的研修 全 4 回シリーズの研修 参加者 8 名
福岡医療短期大学公開講座	平成 26 年 10 月 5 日 (福岡医療短期大学)	テーマ「認知症を考える … 地域で支える認知症ケア「現状と課題」…」 参加者 123 名

## 別表 7 平成26年度海外研修派遣一覧表

### 第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
成長発達歯学講座	教授	石川博之	学会発表	(アメリカ)ニューオリンズ	H26. 4. 25	H26. 4. 29
成長発達歯学講座	准教授	梶井貴史	学会発表	(アメリカ)ニューオリンズ	H26. 4. 25	H26. 4. 29
咬合修復学講座	教授	高橋裕	研究打合せ・講義	(アメリカ)クレムソン	H26. 6. 7	H26. 6. 14
成長発達歯学講座	助教	柏村晴子	学会発表	(韓国)ソウル	H26. 4. 18	H26. 4. 20
咬合修復学講座	教授	城戸寛史	学会発表	(韓国)ソウル	H26. 5. 30	H26. 6. 1
総合医科学講座	講師	寒水康雄	学会発表	(ギリシャ)アテネ	H26. 6. 12	H26. 6. 18
生体構造学講座	教授	沢禎彦	学会発表	(南アフリカ)ケープタウン	H26. 6. 23	H26. 6. 30
口腔保健学講座	准教授	嶋田香	学会発表	(ドイツ)ミュンヘン	H26. 8. 31	H26. 9. 6
総合歯科学講座	教授	米田雅裕	学会発表・研究打合せ	(アメリカ・カナダ)ボストン・ケベック	H27. 3. 10	H27. 3. 17
口腔医療センター	教授	古賀千尋	学会発表	(アメリカ)ホノルル	H26. 9. 8	H26. 9. 13
口腔・顎顔面外科学講座	教授	大関悟	学会発表・研究打合せ	(スイス)チューリッヒ	H26. 9. 20	H26. 9. 29
口腔・顎顔面外科学講座	助教	府川晃久	学会発表・研究打合せ	(スイス)チューリッヒ	H26. 9. 20	H26. 9. 29
咬合修復学講座	教授	佐藤博信	学会発表	(トルコ)イスタンブール	H26. 9. 23	H26. 9. 28
咬合修復学講座	助教	川口智弘	学会発表	(トルコ)イスタンブール	H26. 9. 23	H26. 9. 28
咬合修復学講座	医員	高江洲雄	学会発表	(トルコ)イスタンブール	H26. 9. 23	H26. 9. 28
咬合修復学講座	医員	長谷英明	学会発表	(トルコ)イスタンブール	H26. 9. 23	H26. 9. 28
口腔・顎顔面外科学講座	講師	泉喜和子	学会発表	(アメリカ)ホノルル	H26. 9. 7	H26. 9. 15
総合医学講座	教授	大星博明	講演・シンポジウム	(フランス・ベルギー)アミアン・ヘント	H26. 9. 20	H26. 9. 27
成長発達歯学講座	教授	石川博之	学会発表	(マレーシア)クチン	H26. 10. 16	H26. 10. 19
成長発達歯学講座	准教授	梶井貴史	学会発表	(マレーシア)クチン	H26. 10. 16	H26. 10. 19
先端科学研究センター	教授	関口睦夫	ワークショップ	(中国)北京	H26. 10. 19	H26. 10. 26
機能生物学講座	教授	早川浩	ワークショップ	(中国)北京	H26. 10. 19	H26. 10. 26
咬合修復学講座	教授	城戸寛史	学会・シンポジウム	(中国)上海	H26. 10. 22	H26. 10. 25
咬合修復学講座	講師	加倉加恵	学会・シンポジウム	(中国)上海	H26. 10. 22	H26. 10. 25
咬合修復学講座	助教	川口智弘	学会発表	(インドネシア)ヌサドゥア・バリ	H26. 10. 28	H26. 11. 2
総合医学	助教	山田俊輔	学会発表	(アメリカ)ペンシルバニア州、フィラデルフィア	H26. 11. 12	H26. 11. 17
総合医学	助教	中村晋之	研究打合わせ	(アメリカ)ワシントンDC	H26. 11. 15	H26. 11. 20
総合医学	准教授	徳本正憲	講師派遣	(中国)西安	H26. 10. 17	H26. 10. 19
総合医学	准教授	徳本正憲	学会発表	(アメリカ)ペンシルバニア州、フィラデルフィア	H26. 11. 12	H26. 11. 17
診断全身管理学講座	教授	湯浅賢治	学会発表	(インドネシア)バリ島サヌール	H26. 11. 19	H26. 11. 23
診断全身管理学講座	医員	筑井朋子	学会発表	(インドネシア)バリ島サヌール	H26. 11. 19	H26. 11. 23
成長発達歯学講座	教授	石川博之	学会発表	(韓国)ソウル	H26. 10. 30	H26. 11. 1
成長発達歯学講座	准教授	梶井貴史	学会発表	(韓国)ソウル	H26. 10. 30	H26. 11. 1
成長発達歯学	講師	岡暁子	研究打合わせ	(韓国)ソウル	H26. 11. 9	H26. 11. 11
	大学長	北村憲司	式典参加	(ミャンマー)ヤンゴン	H26. 12. 26	H26. 12. 30
口腔・顎顔面外科学講座	教授	大関悟	式典参加	(ミャンマー)ヤンゴン	H26. 12. 26	H26. 12. 29
成長発達歯学講座	教授	石川博之	学会座長	(台湾)台北	H26. 11. 20	H26. 11. 23
咬合修復学講座	講師	森永健三	研究打合せ	(アメリカ)ロサンゼルス	H27. 1. 6	H27. 1. 9
口腔・顎顔面外科学講座	助教	府川晃久	論文仕上げ	(スイス)チューリッヒ	H27. 2. 21	H27. 3. 14
成長発達歯学	大学院生	田村翔悟	学会発表	(韓国)ソウル	H26. 4. 18	H26. 4. 20
咬合修復学講座	大学院生	谷口祐介	学会発表	(韓国)ソウル	H26. 5. 30	H26. 6. 1

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
成長発達歯学講座	大学院生	高 田 俊 輔	学会発表	(南アフリカ) ケープタウン	H26. 6. 23	H26. 6. 30
口腔・顎顔面外科学講座	大学院生	佐々木 三 奈	学会、研究打合わせ	(チェコ・スイス) プラハ・チェリッピ	H26. 9. 20	H26. 9. 29
口腔・顎顔面外科学講座	大学院生	勝 俣 由 里	学会、研究打合わせ	(チェコ・スイス) プラハ・チェリッピ	H26. 9. 20	H26. 9. 29
口腔・顎顔面外科学講座	大学院生	田 中 文 恵	学会、研究打合わせ	(チェコ・スイス) プラハ・チェリッピ	H26. 9. 20	H26. 9. 29
咬合修復学講座	大学院生	谷 口 祐 介	シンポジウム講演・講義	(中国) 上海	H26. 10. 22	H26. 10. 25
診断全身管理学講座	大学院生	橋 本 麻 利 江	学会発表	(インドネシア) バリ島サスール	H26. 11. 19	H26. 11. 23
咬合修復学講座	大学院生	谷 口 祐 介	学会発表	(アメリカ) サンフランシスコ	H27. 3. 11	H27. 3. 16
総合歯科学講座	助教	加 藤 智 崇	学会発表	(アメリカ) ボストン	H27. 3. 10	H27. 3. 17
総合歯科学講座	医員	藤 本 暁 江	学会発表・研究打合せ	(アメリカ・カナダ) ボストン・ケベック	H27. 3. 10	H27. 3. 17
総合歯科学講座	大学院生	山 口 真 広	学会発表	(アメリカ) ボストン	H27. 3. 10	H27. 3. 17
口腔医療センター	医員	大 家 知 子	学会発表	(アメリカ) ボストン	H27. 3. 10	H27. 3. 16
口腔保健学講座	准教授	嶋 田 香	学会発表	(アメリカ) サンフランシスコ	H27. 3. 29	H27. 4. 4
細胞分子生物学講座	教授	山 崎 純	学生引率	(中国) 瀋陽	H27. 3. 8	H27. 3. 15
成長発達歯学講座	講師	木村 敬次リチャード	学生引率	(中国) 瀋陽	H27. 3. 8	H27. 3. 15
機能生物化学講座	教授	早 川 浩	学生引率	(中国) 上海	H27. 3. 15	H27. 3. 22

④第3種海外研修派遣：1カ月以内視察、調査、研究、学会参加等

### 第1種海外研修派遣実績一覧表

### 福岡歯科大学

所属	職名	氏名	派遣先	自	至
口腔保健学講座	講師	晴 佐 久 悟	メルボルン大学(オーストラリア)	H26. 4. 1	H27. 3. 31
咬合修復学講座	講師	山 本 勝 己	ロマリダ大学(アメリカ)	H26. 4. 1	H27. 3. 31
咬合修復学講座	大学院生	大 多 和 昌 人	ミシガン大学(アメリカ)	H26. 4. 1	H27. 3. 31
総合歯科学講座	大学院生	瀬 野 恵 衣	International Agency for Research on Cancer(フランス)	H26. 9. 1	H27. 8. 31
成長発達歯学講座	大学院生	戸 田 雅 子	ミシガン大学(アメリカ)	H26. 9. 1	H27. 8. 31

④第1種海外研修派遣：1カ月以上1年以内の海外研修等

### 第3種海外研修派遣実績一覧表

### 福岡医療短期大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
歯科衛生学科	講師	黒 木 ま ど か	学生引率	(アメリカ) ロサンゼルス	H26. 10. 21	H26. 10. 31
保健福祉学科	教授	高 瀬 文 広	研究発表	(韓国) ソウル	H26. 5. 16	H26. 5. 18

④第3種海外研修派遣：1カ月以内視察、調査、研究、学会参加等

別表8 平成26年度 外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研修等名	場所	参加者
企画課	4/18	平成26年度「私立大学経営・財政基盤強化に関する協議会」	東京	石橋（慶）
	5/29	信頼を高めるビジネス文書・Eメールの基本的な書き方セミナー	福岡	土岐
	5/23	ファシリテーション基礎研修	福岡	石橋（幸）
	7/2	私立大学経常費補助金説明会	福岡	土岐
	7/3	私立大学経常費補助金説明会	福岡	石橋（幸）
	7/17	広報セミナー	福岡	土岐
	7/28-30	戦略的大学連携事業 職員短期研修派遣	神奈川	石橋（幸）
	9/4	学校教育法及び国立大学法人法等の改正に関する実務説明会	東京	石橋（慶）
	9/11	ビジネスマナー基礎研修	福岡	吉成
	9/11	ビジネスマナー基礎研修	福岡	土岐
	11/12-13	Web担当者Forumミーティング	東京	石橋（幸）
	1/14	大学設置等に関する事務担当者説明会	東京	石橋（慶）
	2/13	学校法人の運営等に関する協議会	東京	石橋（慶）
	3/9	平成26年度「広報担当者協議会」	大阪	堀
総務課	4/24	問題社員対応の基礎法律知識と実務	福岡	香月
	9/26	人事院勧告と私学の賃金問題講座	東京	柳
	6/2	研究活動倫理の検証と進化策Ⅲセミナー	東京	和才
	6/20	歯科大学学長・歯学部長会議	鹿児島	和才
	6/20	歯科大学学長・歯学部長会議	鹿児島	有村
	6/24	私学共済事務担当者連絡会	福岡	石橋
	6/26	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	福岡	和才
	6/26	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	福岡	有村
	7/3	経常費補助金説明会	福岡	和才
	7/2	経常費補助金説明会	福岡	石橋
	7/2	経常費補助金説明会	福岡	有村
	7/3	経常費補助金説明会	福岡	柳
	7/11	給与実務研修会（諸手当関係）	東京	田島
	7/17	人権・同和問題企業事業主研究会	福岡	香月
	7/18	新システム利用説明会	福岡	石橋
	8/6	私学共済事務担当者研修会	福岡	石橋
	8/7	労働時間の適正管理・重要ポイントと臨検監督への実務対応	福岡	香月
	8/7	労働時間の適正管理・重要ポイントと臨検監督への実務対応	福岡	柳
	8/28	給与実務研修会（人事院勧告説明会）	東京	田島
	9/5	科学研究費助成事業公募要領等説明会	福岡	和才
	9/5	科学研究費助成事業公募要領等説明会	福岡	有村
	9/16	「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」等に関する説明会	大阪	和才
	9/26	研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに係る説明会	東京	和才
	10/10	退職金財団業務説明会	福岡	石橋
11/7	人権同和問題企業指導者説明会	福岡	香月	
11/14	人事・労務情報交換会	熊本	柳	
11/14	人事・労務情報交換会	熊本	田島	

所属	受講日	研修等名	場所	参加者
総務課	11/28	再任用・退職手当・年金制度の実務者研修会	東京	柳
	1/30	学校教育法改正に伴う規定等研究協議会	東京	和才
	1/30	人権・同和問題企業セミナー	福岡	田島
	2/17	大学-JST意見交換会	大阪	和才
	2/19	マイナンバー制度に関する説明会	福岡	田島
	2/20	「給与実務の実例」研修会	東京	柳
財務課	6/9	私経研特別セミナー	大阪	箱田
	6/26	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	福岡	檜崎
	6/26	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	福岡	今林
	7/3	私立大学経常費補助金説明会	福岡	檜崎
	7/3	私立大学経常費補助金説明会	福岡	豊福
	7/16	改正学校法人会計基準対策実務講座	愛知	豊福
	8/6	学校法人のための予算編成と予算管理の進め方コース	愛知	本山
10/15-17	大学経理部課長相当者研修会	広島	豊福	
学務課	7/3	経常費補助金説明会	福岡	赤坂
	7/3	経常費補助金説明会	福岡	柴尾
	8/22	大学入試センター試験入試担当者連絡協議会	熊本	鈴木
	8/27-28	中堅職員研修会	福岡	木下
	9/25-26	心の問題と成長支援ワークショップ	兵庫	木下
	10/7-9	大学教務部課長相当研修会	静岡	鈴木
	10/19	第12回SDフォーラム	京都	赤坂
	10/30-31	私立大学歯学部学生生活協議会	新潟	鈴木
11/6	私立大学の教育・研究充実に関する研究会	東京	鈴木	
情報図書館課	8/19-20	大学情報セキュリティ研究講習会	東京	亀井
	8/28-29	私立大学図書館協会総会・研究会	岡山	青木
	10/17	九州地区医学図書館協議会総会	熊本	青木
	10/21-22	オープンアクセスサミット2014	東京	亀井
	10/28-31	NetScreen/SSG導入と運用	福岡	上野
	2/2-4	インターネットセキュリティ技術	東京	亀井
病院事務課	6/23	給食施設従事者研修会	福岡	藤木
	7/10-12	全国歯科大学歯学部附属病院長会議	徳島	藤木
	11/26	診療情報管理研究研修会	福岡	田村
	11/17	自衛消防隊員講習	福岡	深川
短大事務課	7/3	経常費補助金説明会	福岡	牛ノ濱
地域連携センター	5/23	ファシリテーション基礎研修	福岡	田中
	8/1	大学入試センター試験入試担当者連絡協議会	熊本	田中
	1/30	学校教育法改正に伴う規定等研究協議会	東京	松添

## 別表 9 平成26年度学内研修一覧

### ○階層別研修

研修名		対象者	研修内容	日・場所	受講者数
1	採用時研修	新規採用事務職員	「大学職員の基礎知識」等	4月3日～9日 7月2日～9日 8:30-9:30等 第1会議室	13名
2	初任者研修	採用後1年以下の 事務職員等	「新採用職員への期待と心構え」	5月10日 9:00-12:45 第3会議室	12名
			「他課研修」	8月21日～9月18日 8:30-17:15 各担当課	7名
3	課長研修	課長・課長補佐	「知識基盤社会における事務職員の役割」	5月23日 17:30-18:50 第3会議室	14名
4	課長補佐研修	課長補佐	「管理職員としての使命・役割」	6月14日 8:30-12:40 第3会議室	7名
5	若手等職員研修	2年目以上職員	「コスト削減とその効果」	7月12日 9:00-12:40 第3会議室	9名
6	係長・主任研修	係長・主任	「福岡学園の永続的発展に向けて～特にコスト削減について考える～」	8月30日 8:25-12:40 第3会議室	21名
7	女性事務職員ステップアップ研修	女性事務職員	「職員一人ひとりが意欲と能力を発揮し、女性がいきいきと活躍できる職場づくり」	10月10日 15:00-17:40 第3会議室	17名

### ○専門研修

研修名		対象者	研修内容	日・場所	受講者数
1	考課者研修	課長・課長補佐	「人事考課のための考課者研修」	11月28日 第3会議室	17名

### 別表 1 0 平成26年度 戦略的大学連携支援事業短期研修参加者

受講日	研 修 名	主 催	場 所	参加者
7/28-30	戦略的大学連携事業 職員短期研修派遣	鶴見大学	神奈川	石橋（幸）

### 別表 1 1 平成26年度 西部地区五大学連携懇話会研修参加者

受講日	研 修 名	主 催	場 所	参加者
5/23	ファシリテーション基礎研修	九州大学	福岡	石橋
5/23	ファシリテーション基礎研修	九州大学	福岡	田中
9/11	ビジネスマナー基礎研修	中村学園大学	福岡	吉成
9/11	ビジネスマナー基礎研修	中村学園大学	福岡	土岐

## 別表 1 2 資金収支総括表

(単位:千円)

科 目		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	3,419,725	3,350,050	3,022,215	3,001,143	2,991,656
	手数料収入	21,939	21,134	23,777	28,953	23,804
	寄附金収入	27,137	25,212	40,725	64,251	56,025
	補助金収入	597,966	361,121	385,796	809,882	603,708
	資産運用収入	784,801	785,831	820,373	904,588	860,667
	資産売却収入	1,532,840	1,478,924	1,066,045	1,219,790	1,026,734
	事業収入	1,859,453	1,909,846	1,999,052	2,092,602	2,197,452
	雑収入	241,852	168,955	182,464	206,878	179,074
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	733,194	540,929	511,488	440,342	424,424
	その他の収入	4,983,108	4,870,258	9,381,107	9,676,320	4,714,553
	資金収入調整勘定	△ 1,239,655	△ 1,070,351	△ 945,480	△ 1,133,562	△ 1,055,829
	小計	12,962,360	12,441,909	16,487,562	17,311,187	12,022,268
	前年度繰越支払資金	1,254,015	812,457	550,818	652,306	730,549
合計	14,216,375	13,254,366	17,038,380	17,963,493	12,752,817	
支出の部	人件費支出	3,576,403	3,340,714	3,453,023	3,626,828	3,835,679
	教育研究経費支出	1,241,883	1,373,628	1,399,907	1,428,693	1,505,085
	管理経費支出	208,472	216,146	235,897	226,962	410,415
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	125,645	228,176	251,120	78,056	70,695
	設備関係支出	264,090	303,949	293,882	556,596	735,684
	資産運用支出	7,521,713	6,901,783	10,912,490	11,260,554	5,326,494
	その他の支出	1,071,943	619,244	301,346	470,194	436,728
	資金支出調整勘定	△ 606,231	△ 280,092	△ 461,591	△ 414,939	△ 495,430
	小計	13,403,918	12,703,548	16,386,074	17,232,944	11,825,350
	次年度繰越支払資金	812,457	550,818	652,306	730,549	927,467
	合計	14,216,375	13,254,366	17,038,380	17,963,493	12,752,817



### 別表 1 3 消費収支総括表

(単位:千円)

科 目		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
消費 収入 の 部	学生生徒等納付金(ア)	3,419,725	3,350,050	3,022,215	3,001,143	2,991,656
	手数料	21,939	21,134	23,777	28,953	23,804
	寄附金(イ)	41,623	42,039	51,473	71,162	68,953
	補助金(ウ)	597,966	361,121	385,796	809,882	603,708
	資産運用収入	784,801	785,831	820,373	904,588	860,667
	資産売却差額(エ)	0	0	0	0	0
	うち、有価証券売却差額	0	0	0	0	0
	事業収入	1,859,453	1,909,846	1,999,052	2,092,602	2,197,452
	雑収入	241,852	478,151	182,635	207,067	186,568
	合 計(オ)	6,967,359	6,948,172	6,485,321	7,115,397	6,932,808
基 本 金 組 入 額	基本金組入額(カ)	△ 2,659,119	△ 2,186,178	△ 2,745,421	△ 2,126,424	△ 1,192,528
	(第1号基本金組入額)	△ 531,889	△ 441,659	△ 332,811	△ 412,844	△ 565,658
	(第2号基本金組入額)	△ 600,000	△ 222,009	△ 600,000	0	△ 600,000
	(第3号基本金組入額)	△ 1,527,230	△ 1,522,510	△ 1,812,610	△ 1,713,580	△ 26,870
	(第4号基本金組入額)	0	0	0	0	0
消費収入(オ+カ)(キ)		4,308,240	4,761,994	3,739,900	4,988,973	5,740,280
消 費 支 出 の 部	人件費(ク)	3,409,596	3,254,359	3,307,536	3,518,941	3,812,485
	教育研究経費(ケ)	1,736,022	1,875,535	1,887,072	1,930,232	2,031,312
	うち、減価償却	498,174	498,425	486,617	501,123	525,114
	管理経費(コ)	237,577	244,931	266,221	256,788	498,278
	うち、減価償却	28,653	28,253	28,497	29,774	28,696
	借入金等利息(サ)	0	0	0	0	0
	資産処分差額(シ)	36,906	6,029	15,302	33,457	15,412
	うち、有価証券処分差額	0	0	0	0	0
	うち、有価証券評価差額	0	0	0	0	0
	徴収不能引当金繰入額 (又は徴収不能額)(ス)	4,054	7,252	264	237	512
消費支出合計(セ)		5,424,155	5,388,106	5,476,395	5,739,655	6,357,999
当年度消費収入超過額(キ)-(セ) (又は△当年度消費支出超過額)		△ 1,115,915	△ 626,112	△ 1,736,495	△ 750,682	△ 617,719
前年度繰越消費収入超過額 (又は△前年度繰越消費支出超過額)		4,777,666	3,662,040	3,106,283	1,555,663	805,584
(何) 年度消費支出準備金繰入額		0	0	0	0	0
(何) 年度消費支出準備金取崩額		0	0	0	0	0
基本金取崩額		289	70,355	185,875	603	9,080
翌年度繰越消費収入超過額 (又は△翌年度繰越消費支出超過額)		3,662,040	3,106,283	1,555,663	805,584	196,945
帰属収支差額(オ)-(セ)		1,543,204	1,560,066	1,008,926	1,375,742	574,809

# 別表 1 4 貸借対照表

(単位:千円)

資 産 の 部						負 債 ・ 基 本 金 及 び 消 費 収 支 差 額 の 部					
科 目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	科 目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
固 定 資 産 (a)	55,335,068	56,452,773	57,267,347	58,110,972	58,534,414	負 債 (e)	3,584,759	2,669,599	2,648,124	2,428,887	2,445,784
有 形 固 定 資 産	11,266,188	11,243,389	11,273,345	11,355,175	11,222,020	固 定 負 債 (f)	2,097,127	1,693,087	1,557,038	1,428,039	1,381,913
う ち 、 土 地	2,853,955	2,853,955	2,853,955	2,853,955	2,794,827	う ち 、 長 期 借 入 金	0	0	0	0	0
う ち 、 建 物	5,100,576	5,099,226	5,120,866	4,918,709	4,745,710	う ち 、 学 校 債	0	0	0	0	0
う ち 、 構 築 物	196,521	184,230	172,542	201,634	190,422	う ち 、 退 職 給 与 引 当 金	2,058,214	1,663,416	1,517,929	1,410,042	1,379,732
う ち 、 教 育 研 究 用 機 器 備 品	1,535,472	1,494,563	1,493,114	1,722,685	1,781,899	流 動 負 債 (g)	1,487,632	976,512	1,091,086	1,000,848	1,063,871
そ の 他 の 固 定 資 産 (l)	44,068,880	45,209,384	45,994,002	46,755,797	47,312,394	う ち 、 短 期 借 入 金	0	0	0	0	0
う ち 、 収 益 事 業 元 入 金	0	0	0	0	0	う ち 、 前 受 金 (h)	746,094	549,529	497,108	449,682	433,764
う ち 、 減 価 償 却 引 当 特 定 資 産	8,946,000	8,946,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000	基 本 金 (i)	49,500,234	51,616,057	54,175,603	56,301,424	57,484,872
流 動 資 産 (b)	1,411,965	939,166	1,112,043	1,424,923	1,593,187	ア 第 1 号 基 本 金	21,853,264	22,224,568	22,371,504	22,783,745	23,340,323
う ち 、 現 金 ・ 預 金 (c)	812,457	550,818	652,306	730,549	927,467	イ 第 2 号 基 本 金	8,800,000	9,022,009	9,622,009	9,622,009	10,222,009
う ち 、 有 価 証 券	0	0	0	0	0	ウ 第 3 号 基 本 金	18,426,970	19,949,480	21,762,090	23,475,670	23,502,540
そ の 他	599,508	388,348	459,737	694,374	665,720	エ 第 4 号 基 本 金	420,000	420,000	420,000	420,000	420,000
合 計 (d)	56,747,033	57,391,939	58,379,390	59,535,895	60,127,601	消 費 収 支 差 額 (j)	3,662,040	3,106,283	1,555,663	805,584	196,945
						(何) 年 度 消 費 支 出 準 備 金	0	0	0	0	0
						翌 年 度 繰 越 消 費 収 入 超 過 額 又 は △ 翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	3,662,040	3,106,283	1,555,663	805,584	196,945
						合 計 (e) + (i) + (j)	56,747,033	57,391,939	58,379,390	59,535,895	60,127,601
						減 価 償 却 額 の 累 積 額 の 合 計 額	10,738,993	11,056,286	11,246,386	11,510,460	11,796,806
						基 本 金 未 組 入 額 (k)	78,378	38,069	106,401	35,274	104,069

《参考》

正 味 財 産	53,162,274	54,722,340	55,731,266	57,107,008	57,681,817
---------	------------	------------	------------	------------	------------

## 別表15 財務比率表

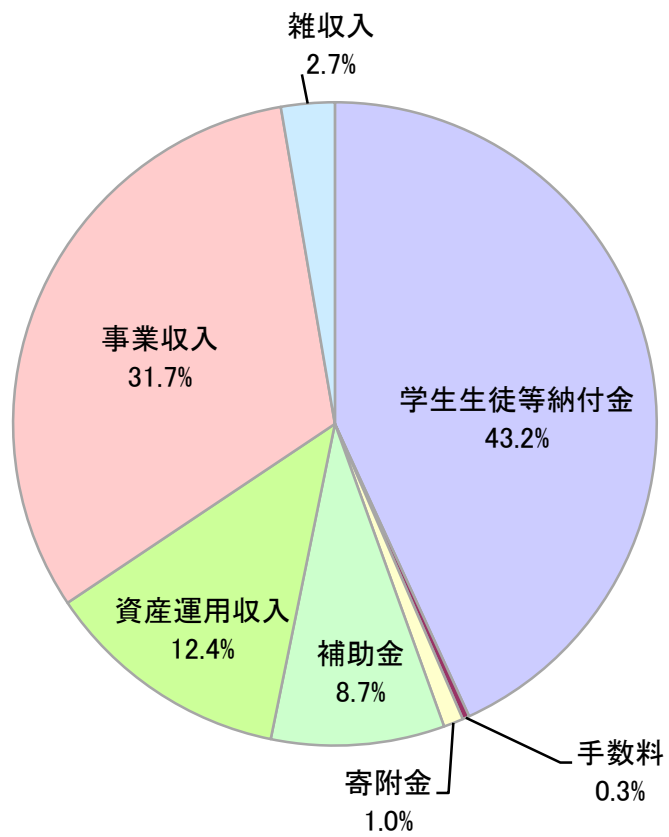
分類	比 率	算 式 (×100)	評価	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額 (j)}}{\text{総 資 金 (e) + (i) + (j)}}$	△	6.5%	5.4%	2.7%	1.4%	0.3%
	基本金比率	$\frac{\text{基 本 金 (i)}}{\text{基本金要組入額 (i) + (k)}}$	△	99.8%	99.9%	99.8%	99.9%	99.8%
	固定比率	$\frac{\text{固 定 資 産 (a)}}{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}$	▼	104.1%	103.2%	102.8%	101.8%	101.5%
	その他の固定資産構成比率	$\frac{\text{その他の固定資産 (l)}}{\text{総 資 産 (d)}}$	△	77.7%	78.8%	78.8%	78.5%	78.7%
	流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産 (b)}}{\text{流 動 負 債 (g)}}$	△	94.9%	96.2%	101.9%	142.4%	149.8%
	前受金保有率	$\frac{\text{現 金 預 金 (c)}}{\text{前 受 金 (h)}}$	△	108.9%	100.2%	131.2%	162.5%	213.8%
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債 (e)}}{\text{総 資 産 (d)}}$	▼	6.3%	4.7%	4.5%	4.1%	4.1%
	負債比率	$\frac{\text{総 負 債 (e)}}{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}$	▼	6.7%	4.9%	4.8%	4.3%	4.2%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}{\text{基本金要組入額 (i) + (k)}}$	△	107.2%	105.9%	102.7%	101.4%	100.2%
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費 (ク)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	▼	48.9%	46.8%	51.0%	49.5%	55.0%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費 (ケ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	△	24.9%	27.0%	29.1%	27.1%	29.3%
	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費 (コ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	▼	3.4%	3.5%	4.1%	3.6%	7.2%
	帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入 - 消費支 (オ) - (セ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	△	22.1%	22.5%	15.6%	19.3%	8.3%
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出 (セ)}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金 (ア)}}$	▼	158.6%	160.8%	181.2%	191.2%	212.5%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金 (ア)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	～	49.1%	48.2%	46.6%	42.2%	43.2%
	寄附金比率	$\frac{\text{寄 附 金 (イ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	△	0.6%	0.6%	0.8%	1.0%	1.0%
	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金 (ウ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	△	8.6%	5.2%	5.9%	11.4%	8.7%
	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額 (カ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	△	38.2%	31.5%	42.3%	29.9%	17.2%

注1) 評価：△高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない

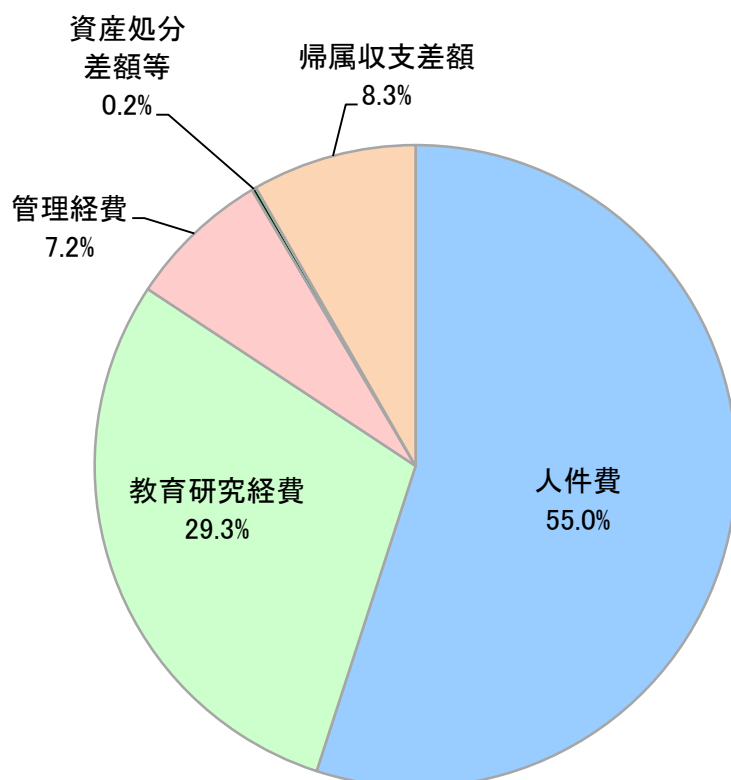
注2) 総資金＝負債＋基本金＋消費収支差額      自己資金＝基本金＋消費収支差額

別表 1 6

26年度帰属収入構成比率

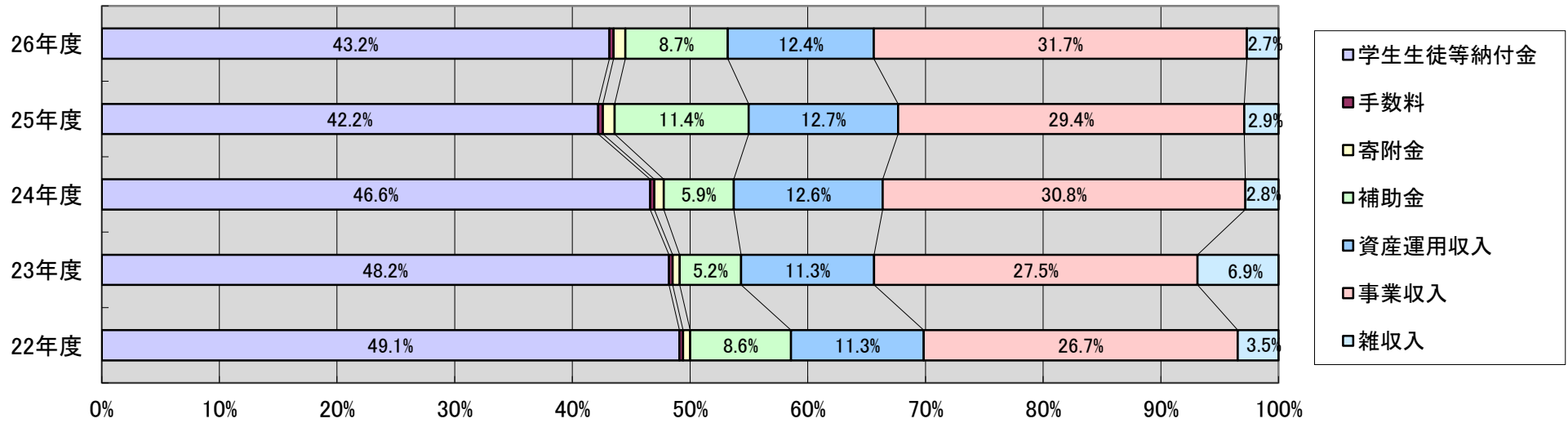


26年度帰属収入に対する消費支出構成比率



# 別表 1 7

## 帰属収入構成比率年度別推移



## 帰属収入に対する消費支出構成比率年度別推移

